

YU

山口大学広報誌 2009.11月号 NO.93
Information
ワイユー インフォメーション



就職
特集

早めに持つ
就職意識のススメ

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/yu/>

就職特集

特集

「早めに持つ就職意識のススメ」

○就職座談会 小嶋直哉・平尾元彦・植木彩佳
伊藤 遼・浅谷靖史・西川純基
平田有紀・松田晃明・馬瀬祥伍 2

○企業からのメッセージ ... タカラスタANDARD株式会社・株式会社トクヤマ
株式会社KRYサービスステーション・株式会社中国警備保障 8

○社会の第一線で働く卒業生から在学生へのアドバイス
..... 木原陽子・中村典子・本田 理・長瀬裕和 12

○就職活動を終えた学生からのメッセージ 17

○大公開！山口大学の学生支援施設
就職支援室 18
自主活動ルーム 高見早苗 19

各学部の就職支援の特色、取り組みの紹介

○人文学部 太田 聡 20
○教育学部 武田 賢治 20
○経済学部 城下 賢吾 20
○理学部 増本 誠 21
○医学部 山崎 秀夫 21
○工学部 兵動 正幸 22
○農学部 滝本 晃一 22



留学生の就職支援

○留学生の就職支援の現状 福屋利信 23
○日本での就職活動 劉 丹 23

就職活動交流会の実行委員会を突撃取材!

..... 村上智美・岩崎 悠 24

学内業界・企業研究会の紹介 平尾元彦 26
トピックス

○O-HARA山口大学就職支援施設 28

○留学生向け「学校からのおたより」 ... 杉原道子 29

私の授業 30

私の研究 31

教員から寄せられた著書 33

編集後記





(写真：後列左から、平尾元彦学生支援センター教授(司会)、浅谷靖史さん、西川純基さん、馬瀬祥伍さん、小嶋直哉教育学生担当副学長
前列左から、伊藤遼さん、松田晃明さん、平田有紀さん、植木彩佳さん)



就職 特集

「早めに持つ就職意識のススメ」

就職座談会

2009年11月3日(火)、山口大学の学部学生7人と小嶋直哉教育学生担当副学長で、将来について考える座談会を開催しました。山口大学を選んだ理由、将来のために今していること、山口大学への期待と大学生活の抱負等を語っていただきました。

○司会 本日は、山口大学の1～2年生の皆さんにお集まりいただきました。山口大学を卒業した、その次の一步を少し意識しながら、皆さんが今どんなことを考えているのか、これからお伺いしたいと思います。また、本日は教育学生担当副学長の小嶋先生にも来ていただいています。小嶋先生からのコメントもいただきながら進めていきたいと思しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

どうして山口大学を選んだのか

○司会 それでは、今山口大学で学んでいる皆さんがどうして山口大学を選んだのか、学部・学科を選んだ理由を含めてお話いただければと思います。

○植木 もともと社会心理学を勉強したいとずっと思っていて、地元が広島なので中国地方の大学に行こうと思い、山口大学を選びました。広島とは全然雰囲気違って、のんびりした雰囲気の中でいろいろ勉強できるので楽しいです。

○伊藤 教育学部に入りたいくて、現実問題として入れそうな教育学部のある大学という理由で山口大学になりました。教育学部に入った理由は、学校の先生になりたいからというわけではなく、公立高校の教え方に少し疑問があって、なぜこんな教え方をしているのかを知りたくて、教育学部を選びました。

○浅谷 地元の国立大学ということ、また、山口大学経済学部は山口高商の時代から伝統があり、いろんな学部がある中で社会に出て一番役に立つ学部だと思ったので、経済学部を選びました。自分が高校の時に思っていたよりも、経済学はいろいろと理論とか難しいこともあって、余りついていけないところもありますが、今のところ頑張っています。

○西川 数学がやりたかったというのが大きな理由です。山口大学は、廣中平祐先生という有名な数学の先生が学長をやられたことがあって、その先生に



西川 純基
理学部数理科学科2年

すごく興味があったので選んだというのも理由の一つです。国立大学でしっかり4年間学んだ上で、将来は教員になりたいんです。山口大学は図書館がかなり充実していて、朝は図書館にこもっていることが多いのですが、大学生活というのはやはり

高校生活と違うんだなというのを今感じ始めていて、それでもっと数学の幅の広い見方ができるようになってきているんだなと、ちょうど実感しているところです。

○平田 保健学科を選んだ理由は、私は高校時代部活のマネージャーをしていて、すごくや

りがいを感じて、また医療に興味を持っていたので、医療に関わりながら、患者さんに1番近い位置で支える役割を果たす看護師になりたいという夢を持ったので、保健学科を選びました。山口大学は国家試験合格率100%を出しており、英語にも力を入れているので、それなら自分がやりたいことがしっかり身に付けられると思って決めました。今、医学部のある小串キャンパスで受けている授業があるんですけど、そこで実際に人体解剖を行う機会があって、そういう経験ができたこともあり、選んでよかったです。

○松田 昔から飛行機が好きで、空を飛ぶことについて勉強したいと思っていました。受験する大学を選んでいる時に、山口大学の工学部に「航空宇宙コース」というのがあって、その名前に惹かれて入りました。授業は思っていたのと違って、工学の基礎的な授業が多くて、今のところはあまり航空の授業はありませんが、とりあえず基礎をしっかりやろうと思って頑張っています。

○馬瀬 浪人していた間にやりたいことを考えて、生物をやりたいと思い、農学部という路線を決めて、受験の結果や両親との話し合い、地元からも近いからという理由で山口大学を選びました。もともと生物自体を勉強したことがなかったので、戸惑うことが多かったんですけど、どの授業もここの農学部でないと受けられないような授業ばかりなので、すごく楽しくて充実しています。

○司会 ありがとうございます。一通り山口大学を選んだ理由についてお話をいただきまして、やりたいことがあって入学したとか、地元であるとか、いろんな理由がそれぞれあり、その中で皆さんがそれぞれ今頑張っているということをお話いただきました。小嶋先生、今のお話を聞いていかがでしょうか。



平田 有紀
医学部保健学科1年



平尾 元彦
学生支援センター 教授

○小嶋 皆さんは随分と真面目というか、案外自分の進むべき方向というのを考えておられているなという印象を受けました。

○司会 そうですね。皆さんそれぞれの思いで大学に入ってきたわけですが、大学というのは人生の通過点なんですね。い

づれ大学や大学院を巣立って行って仕事に就く方が多いと思います。

将来のために、今何をしているのか？

○司会 さて、大学を卒業して、大学院を修了してどうなっていくんだろうかということを、皆さんそろそろ考えていますか。将来大学を卒業して、あるいは大学院を修了してどんなふうになりたいか、また、そのために自分は今どんなことをしているか、今の大学生活が将来の自分にどういうふうにつながっているかということをお話していただきたいと思います。

○馬瀬 卒業して就職した友達の話を見ると、社会は自分が思っている以上にきついと。礼儀もそうですし、技術云々よりも人間性というものを本当に事細かに見られ、それが評価につながるという話を聞きます。今の私もすぐ社会に出るとするのは無理だなと思っていますが、では今は何をすればいいのかと言われてたら、よく分かりません。アルバイトをしていて、一応働いていますが、例えば接客をきちんとするとか、その程度しか正直思いつきません。ちょっと社会は厳しいかなということは意識しながら頑張っています。

○松田 将来の夢は、もう小学生の頃からパイロットになりたいと思っていました。高校を卒業して大学生になって、何をしないといけないとかがだんだん現実味を帯びてきて、勉強や一般常識を身に付けるための勉強をもう始めないといけないなと思っていますが、大学の授業やアルバイトで結構時間がなくて、できていないのが実際のところなんです。もし時間があつたら、とりえず英語力は要ると思うので、TOEICでもっといい点がとれるように勉強したり、パイロットは一般常識も問われると思うので、そう

いうことを勉強したりとか、健康も大事なので、定期的に運動もしたいと思っています。今、ハングライダーのサークル活動をしていて、それが土・日にあるため、休日が丸々つぶれてしまって、学校の課題をやるのも平日になってしまうし、夜はアルバイトがあるし、結局時間が足りなくなってしまう。

○平田 私の将来の夢は、看護師になりたいというのはもう決まっているので、どういう看護師になるかというのを見据えて勉強していくしかないと思っています。看護師の母からは、「看護師にとって大事なことは、専門的な技術や知識は当たり前で、あとは本人の人間性を見られる。職場の人間関係においても、また患者さんとの関係においても、その人の人間性を見られる。」と聞きました。将来はどんな人からも信頼されるような看護師になるというのが、私の目標です。実際にこれから人間性を高めていくために、今できることというのが、まだなかなか分かりませんが、まずは、人間性を高める前にカリキュラム上の勉強をしっかり身に付けていこう、専門的な学習については、本当に力を入れて勉強しようとしているのが、今の状況です。

○司会 ここまで3人のお話を聞いて、小嶋先生いかがですか。

○小嶋 これからどのように自分の人生を決めていくかにあたって、大学というのは1つの特別な環境が与えられていて、大学生の間に何をやるかは皆さんの自由となっています。ところが、先ほどの話にも出ましたが、社会に出たときにはパーソナリティーが問われるとか、人間としてのトータルパワーみたいなことが問われるという面では、厳しいという話がありましたよね。やはりそれは事実だと思います。人とのつき合いも含めて、マニュアル的な対応は何の役にも立ちません。その場その場に自分自身を置いて、その時に自分自身がどう感じるか、自分の持っている力でそれをどういうふうに乗るか、どう説明していくかが非常に大事になってくると思います。そういうことに関して正解はありませんが、対応の仕方というのはオリジナル、自分しかないと思いま



小嶋 直哉
教育学生担当副学長
大学教育機構長

す。それをものすごく大事にすべきだと思うんですよ。それが最終的には、人間力とか社会力とかとされているのかもしれませんが。

それから、当たらず触らずというのか、ほどほどの距離感で人と付き合うというのが最近の風潮にあると思いますが、でも本当はそういう関係だけでは得られないものもいっぱいありますよね。やはり人間関係というものは大事で、その中で自分自身をつかんでいくのだと思いますので、そういう努力をしてほしいなと思います。

○司会 ありがとうございます。では、続きまして、西川さんから、将来どんなふうになりたいか、そして今そのためにどんなことを考えているか、教えてください。

○西川 小学校、中学校、高校の先生が本当にいい先生ばかりで、その先生たちに憧れて、将来は教員になりたいとずっと思っていました。ただ、このままで教員になれるかと思ったら、そんなことは絶対ないと思う自分がいて、そのためにも大学生活の中で、考えること全てにおいて、教員になるためには何をすればいいんだろうというのを、まず意識してみようかなと思っています。だから、アルバイトも塾の先生をやってみたり、また、本を読むにしても教育関係の本など、自分の中で教員になるためにはどうすればいいかをちょっとずつ考えています。数学の先生になりたいので、もっと数学力をアップしなければいけないというのがありますが、教育学部ではないので、教育に関してはもっと勉強しないといけないと思っています。

○浅谷 将来何になりたいかは、今ははっきり決まっていますが、アルバイト先のすでに卒業された先輩から、社会に出たら、職場で何をしたらいいとか、そういうのが全然分からないと聞きました。アルバイトで4年間ずっと接客を続けてきた先輩なのに、そういう人でも分からないというのを聞くと、



浅谷 靖史
経済学部国際経済学科2年

実際私が社会に出ても、やっていく自信がまだあまりないので、アルバイトや授業など、大学にいるうちにやれることを十分やりたいと思っています。アルバイト先でのお客さんに対して丁寧に対応するように心がけたり、大学生でいる以上しっかり

勉強しようと思っています。

○伊藤 中学生の頃から現代文の授業がかなり私の中で食傷ぎみで、これをやる意味があるのかすごく疑問で教育学部を選んだところがあって、その疑問が晴れて、なおかつ現代文の授業って必要だと自分が思えるようになってきたら、もちろん私は教師になりたいと思っています。

4年間大学の授業を受けて、やはり現代文ってあまり意味がないという自分の答えに至ったならば、自分が教えたいと思う現代文の授業ができる予備校の先生であったり、もしくは映像が好きなので、テレビ局とかそういった方面の企業でもいいかなと、教師か映像関係の仕事か、2つに分かれています。私が疑問に思うことを、学びながら確認をしている途中です。

○植木 先輩と就職について話をしていて、女の子がたくさん勉強して大学に入って、就活も頑張っても、その後結婚や出産で辞めていく人が多いよねという話になり、自分はどうかになって考えたときに、死ぬまで勤められる職業につきたいなと思いました。まだ具体的にははっきりしていませんが、エンターテインメントやメディアに昔からすごく興味を持っているのですが、そういうのは競争率も高そうだし、どういことをしていけばいいのかまだ分かりません。とりあえず今は大学の勉強を頑張っておと糧というか肥やしになりそうな授業を受けています。音楽が好きなので、音楽関係のアルバイトもしていますが、まだまだ他にもいろいろやりたいことがあるのにやり切れていないという状況です。今から半年ぐらいのうちにできることでやりたいと思っているのは留学です。留学に向けて英語の勉強や、日本人がちゃんと日本語を使えないというのが一番自分の中でも気になっていることなので、日本語や漢字の検定を受けてみようかと準備をしています。留学は、外国の文化はもちろんですが、メディアについても、向こうの新聞や雑誌がどんなふうであるとか、町並みとかを見て、自分の中でどのような感情が芽生え、自分がどう受けとめるかということも楽しみです。

○司会 後半4人の方にお話しいただきましたけ



植木 彩佳
人文学部人文社会学科2年

ど、小嶋先生いかがでしょうか。

○小嶋 皆さん1～2年生ですから、専門教育が少し入り始めてきたという段階でしょう。もうあと1年ぐらい勉強していくと、見えてくる世界がまた少しずつ変わってくると思うんです。そうすると、もっと自分自身というものもいくらか出てきて、また展望も当然変わってくると思うんですよね。

その時に非常に大事だと思うのは、専門に対する基本的な力をきちっと身に付けるということだと思うんです。皆さんがこれから出ていこうとするのは、リアルな世界です。そこに具体的な展望を持って、どういうことを自分の専門として職を得て、これからの人生をつくっていこうかと考えることになりますね。4年生のときに、専門ということ非常に強く意識してくるようになると思います。そのときに、自分の専門以外のものは全部切り捨てる人がいる。切り捨てることによって自分の専門性を浮かび上がらそうとする。これは大きな間違いで、その専門がきちっと成り立つためには、幅広いいろんなものの考え方、知識なり技能なりが支えていなければなりません。そう考えると深く勉強してほしいし、幅広くも勉強してほしいです。全部やるというのは無理ですが、何か興味の軸となるものがあって、軸の周りをいくつか勉強してほしいと思います。

○司会 ありがとうございます。皆さんそれぞれいろんな問題意識を持ちながら、将来のことも考え、しっかり歩んでいるということはよく分かりました。

山口大学への期待と大学生活の抱負

○司会 それでは最後の質問です。皆さん頑張って大学生活を送っていますが、まだまだこれからです。これから学ぶべきことはたくさんあると思うんですね。そういった中で、自分のこれからの大学生活の抱負、そして山口大学に何か期待することがあれば、そのことも含めてお願いします。

○植木 伝えるための国語力や道具になる英語をもっとしっかり勉強したいと思います。そして、私が大学でこれに打ち込んだぞと言えるようなことをやりたいです。もともと高校で音楽をしていたので、それをもう一度ちゃんと始められたらと思ってます。また、今の本業は勉強だと思うので就職に向けてちゃんと勉強して、大学時代に吸収できることは貪欲に吸収していきたいと考えています。就活の手順というような資料も最近よく見るので、そういうものもちゃんと読んで勉強しようと思っています。

○司会 就職支援室に来ると、読むものはいっぱいありますので、ぜひ今度お越しください。皆さん就職活動がちょっと気になると思うんですけれども、3

年生の秋ぐらい、ちょうど今ぐらいから企業と接触したりと結構動いているんですね。でも、今決まるわけじゃないんですよ。決まるのは4年生になってからが多いんですけども、たくさんいろんなことを知って考える、3年生の後期はそういう時間になります。



伊藤 遼
教育学部総合文化教育課程
文芸・芸能コース2年

いろんな経験をしながら道を選んでいくということ、少しずつ理解してもらったらいいいと思います。先輩の話聞いてみるのもいいですね。

○伊藤 3年の4月に民間か公務員かを決定すると思うので、この半年が重要です。本当は専門教育を先にやってほしかったんですよ。国語ってこういうのが必要なんだよというのを1～2年でやってくれて、学校の先生になろうと思えば、3年の4月にはスタートできるけども、今の大学のカリキュラムのように、1～2年生は一般教養と専門教育を半々ぐらいやって、3～4年生に国語の深いところを突いてくるというのでは、私にとっては遅いんですね。その辺が山口大学に期待したいところです。

○小嶋 いろいろな考え方がありますね。確かに、1年生の頃から専門を教えるという考え方もあるんです。それをどういう形で実現するかは、長い議論が続いているんですけどね。今現在のところは、1年生を中心に教養教育が先行して、専門教育が少しずつ入ってくる形を取っています。でも教養教育は3年や4年のときに勉強するべきだとか、大学院を通してずっと勉強するべきだという話もあるんです。そういういろんな形で試行錯誤的にやっているというのが、今の状況ですね。

○司会 ありがとうございます。では、次に浅谷さんお願いします。

○浅谷 まだ自分のしたいことが全然はっきりしてなくて、今できることを今のうちに十分やっておかないとだめだと思うので、そこをしっかりとしていきたいのと、3年生の先輩の話聞くと、先ほどおっしゃったように、もう就活のエントリーシートの練習やインターンシップもやられているようなので、そのときになってうらたえたり、分からないことがないように、いろいろ話を聞いておきたいと思います。資格も武器になると思うので、特にこれから3

年生の前期ぐらいまでの間で、資格試験を受けたほうがいいかなとも思っています。

○西川 まず数学がしっかりできればいいなと思っています。あとは数学検定を取りたいというのと、英語力を付けたいというのがあります。山口大学に望むことは、留学において、多くの学生が留学したいようなところを姉妹校にいただければ、私も海外に行って数学を勉強してみたいと思うはずなんですよね。そうなることを願って、英語力を付けてみようと思っています。英語をもっと学ぶためにも、数学英語をまず身に付けなきゃいけないというのと、多分高校レベルからやり直さないといけないとも思うので、高校の単語帳でも一つずつ見ていきたいなと思います。

○平田 私は、2年生から小串のキャンパスに移ってしまうので、今はサークルでいろんな学部の人と関わる機会がありますが、向こうに行ったらやはり同じ考え方、方向性を持った人たちばかりになると思うので、こちらでいろんな人と関わる機会があるうちに、サークルの友達や先輩と将来や夢の話をして、さまざまな価値観・考え方を自分の視野の中に入れていきたいなと思っています。

○松田 講義で先生方もよく「大学生が一番勉強しないといけない」と口を酸っぱくしておっしゃるんです。確かにそのとおりでと思うので、これからは私のパイロットという夢の実現のため、毎週計画的に勉強できるように、ちょっと自分の生活を見直してみようかなとも思っていますが、でもやはり勉強だけするのが大学生ではないと思うのです。1年生のとき、平尾先生がゲストで出られてたキャリアデザインやアクティブラーニングという授業に参加させていただきました。企業の方に実際に会ってインタビューするという結構大変な授業でしたが、いろんな人とも知り合え、いろんな物の考え方も持てるようになったと思うので、そういう経験もこれから

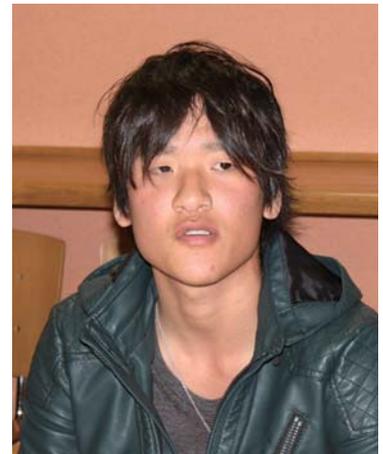


松田 晃明
工学部機械工学科2年

していきたいですね。だから大学に期待するのは、そういう機会や授業をもっと増やしてもらえればと思います。また、皆さん留学の話をしていましたけれど、私も行ってみたいと思います。

○馬瀬 生物を勉強したいから山口大学に来たんです

が、実際に勉強してきて、具体的な進路先というか夢というか、こういう企業に入りたいなとか、そういうのをもうちょっと早く決めたいと思っています。この1年半が充実していたかと聞かれたら、ちょっと疑問が残るような生活を送っていましたので、それを最近



馬瀬 祥伍
農学部生物機能科学科2年

見直そうかなと思っているところです。少しずつ改善して行って、その中でいろんな先輩たちの話を聞いて、自分の方向性を決めていきたいなと思っています。まずは勉強スタイルを立て直したいです。

○小嶋 今1年生と2年生ですね。私が思うのは、就職活動といえば非常に具体的にどの会社を選ぶだとか、どういう職を選ぼうかとか、そういう話になってしまっていますが、1～2年生にとってはキャリアアップという言葉の方が重要だと思うんですよね。自分自身の将来に対して今何をやるべきなのかなどを一生懸命考えて具体的に行動、自分自身がそれにきちんと向き合うことだと思います。自分自身のキャリアアップに対しては、自分自身がやっぱり主体的にならなければならないわけですね。そういう段階に常に立っているんだという考え方はものすごく大事なんです。それはまさに山口大学の理念ですね。「発見し・はぐくみ・かたちにする」、この理念に直結している問題だと思っているんですよ。何を発見するのか、誰が発見するのかはそれぞれでいいんです。それに対して自分が主体的に関与していく、そういうことが大切であると思っています。

○司会 今日は大学生活をいかに有意義に過ごしていくか、そしてそれがまた将来にどうつながっていくかということでお話をいただきました。皆さんそれぞれの問題意識もあり、思いもあることがよく分かりました。それぞれの将来に向けてしっかりと頑張ってもらいたいと思いますし、我々教員、職員も一緒になって、しっかりと次へとつながる道を作っていければと思います。

それでは、これで終了いたします。どうもありがとうございました。

大学生活からできる就職準備

はじめに

はじめまして。タカラスタンダード株式会社の芳村と申します。当社は「ホーロー素材」を軸に、キッチン・バス・洗面台・トイレ等を扱う総合住宅設備機器メーカーです。このたび、広報誌を通じて学生の皆さんと当社とが繋がりを持つことに大変喜びと期待感を持っています。私は仕事上、毎年何百人の学生と面接やセミナーでお会いしていますので、その経験から何かメッセージを発信できればと思っています。今回は、「就職」というキーワードに限った視点で、大学生活の過ごし方や就職活動（就活）に役立つこととお話したいと思います。



芳村 浩幸
タカラスタンダード株式会社
人事部 人事課 課長

とにかく何かを「はじめよう」

選考方法の1つに面接がありますが、

- 学生時代に力を入れて取り組んだことで、自分が成長したと思えることはありますか？
- 学生時代に目標を立て、やり遂げたことや問題を乗り越え達成したことはありますか？

このような学生時代の経験を、多くの企業が質問としています。それは、ビジネスパーソンとして必要な仕事の遂行能力や計画性、積極性や取り組み意欲、ストレス耐性や向上心などを短い時間で判断しようと試みるからです。逆に考えますと、学生時代に何かを経験すれば良いのではなく、その経験を通じて自分で考え、目的を持ち、苦勞をしても継続し、コミュニケーションを大切に、どのように頑張ったか等を意識しながら何事でも取り組むことで、個人的で自立した人物形成になると思います。そのために学生時代は勉強を第一とし、クラブやサークル活動だけでなく、アルバイトやボランティア活動、趣味、特技でも構いません。自分らしさを見つけた

めにも、何かを「はじめる」ことに注力してください。

就職までの学生生活

昨今、ゆとり教育世代やマニュアル世代、標準化された優等生など、現代の学生気質を表現されていますが、決して全ての学生がそうではないと思います。しかし面接などでは、同じような思考を好み、周りの学生と同じ行動をしたいと思い、自分の意志、個性よりもマニュアルを優先してしまう学生が以前より増えてきている実感はあります。就職するための学生生活では決してありませんが、現実には就職という結果を求められる以上、4年生になった時、納得できる就活により内定を勝ち取るためにも、今から就職意識を持つことが必要と思われます。そのためには、自分の苦手な部分を分析し、克服するための考動力（自ら考え行動する）と、得意分野をさらに伸ばすことをお勧めします。流れに身を任せるのではなく、時には自分で流れを作る何かを始めることを考えてはいかがでしょうか。

企業紹介



タカラスタンダード本社

【タカラスタンダード株式会社】

タカラスタンダードは人の住まいに欠かせない住宅設備機器を提供してきました。金属とガラスの複合素材である「ホーロー」を駆使し、世界ではじめてホーローキッチンの開発に成功。この他社にはないオンリーワンのブランドは、当社が長年挑戦し続けてきた証であり誇りです。1912年の創業から約1世紀。タカラスタンダードの挑戦はまだまだ続きます。

<http://www.takara-standard.co.jp/>

山口大学の皆さんへ

今、企業に求められている人材は？

昨年9月のリーマンブラザーズの経営破綻を契機に日本の景気は低迷し、回復の兆しはまだ見えてこない状況にあります。地球温暖化防止、少子高齢化、設備の老朽化、エネルギーコストの高騰等、企業を取り巻く環境は大変厳しいものがあります。その中で企業が存続し、ステークホルダー（株主、顧客、地域、従業員など）へ貢献していくためには、現状維持ではなく、“挑戦と変革”が求められています。そして、社員は決められたことを守る人ではなく、「新たなチャレンジをする人財」が求められています。



安達 秀樹
株式会社トクヤマ
セメント製造部 部長

PDCAサイクルを回せ！

皆さんにとって、企業での仕事はゼロからの挑戦です。大学で学んだことが活かせる仕事に就くことはむしろ稀かもしれないと思ってください。でも、基本的な業務の進め方は同じだと思います。到達すべき目標を明確にし（Plan）、それに向かってどのように取り組んでいくかスケジュールを立てて実行していく（Do）。途中、目標とのギャップを見直し（Check）、そのギャップを埋めるべく行動を起こす（Act）ことは、製造現場であれ、研究所であれ同じです。学生時代から、何事にも目標を立て、目標と実績とのギャップを常にみるように心掛けてください！

不器用でもいいから正面から問題に取り組む

変革には失敗がつきものです。今までより一段上の環境に挑戦するのですから、苦勞するのは当たり前です。一度や二度の失敗にめげず、また、苦難の道に音をあげずに頑張るために、学生時代から、不器用でもいいですから、決して手抜きをすることなく、正面から問題解決に当たってください。また、難問を解決する上で大きな推進力になるのは、仲間の協力であり、悩みを聞いてくれる友達です。山口大学という枠に捉われず、幅広い人と出会うことも大切です。

山口大学の皆さんは、今後、就職という人生の大きな岐路に立っていきますが、人間的に成長する時でもあります。失敗を恐れず、しっかり準備をして挑戦してください。

企業紹介



工場のセメントキルン

【株式会社トクヤマ】

1908年創業のトクヤマは、昨年90周年を迎え、次の100周年に向けて「挑戦と変革」に邁進する総合化学会社で、化学品、セメント建材、多結晶シリコン等の特殊品を製造販売しています。セメント工場は、日本で3番目の生産能力を誇る巨大な工場で、セメントを製造する一方で廃棄物・副産物を年間約200万トン処理し、資源循環型社会に貢献しています。

<http://www.tokuyama.co.jp/>

学問、友情、恋愛、アルバイトのすすめ

山口県内で広告会社を経営しております西本と申します。

私は、地元高校を卒業し、東京の私立大学を卒業した後は東京都内の広告会社に就職しました。そこで営業職を3年経験し、平成5年、地元山口県で父が経営する当社に帰ってまいりました。

私立大学と国立大学とでは雰囲気もカリキュラムも違うと思われまじ、山口県と東京とでも環境が大きく違いますので適切なアドバイスができないと思いますが、何かの参考にしていただければ幸いです。

1年生

まず1年生は、今までの高校生活とは何もかも違う生活リズムになると思いますので、大学生活に慣れる意味でも、クラブ、サークル等に入部・入会して友人を早く作ることが先決だと思います。

新入生歓迎会や合宿そして大学祭、野球大会の応援等にも、積極参加してみてください。「愛校心」が芽生えますし、社会に出ても母校が同じだけで大変親しくなれます。

1年生は、大学に合格したから、親元から離れたからと油断しないで早く大学に慣れ、大学生活のリズムを作ることに専念してオーバーペースにならないよう心がけてください。

2年生

2年生は、大学生活に少し慣れてきますしリズムもできてきますので、授業では一般教養科目を絶対に落とさないようにしながら、大学生活の醍醐味も体験してほしいと思います。

私は、この年からテニスサークル(他大学の女性も在籍)にも在籍しスポーツを通したさわやかな活動も体験しました。女性もたくさん在籍していましたので、新入生歓迎会、クリスマス会、合宿は開催場所も演出も派手になりますので、毎回趣向を凝らしてみんな楽しんでいました。このサークルでの対人関係は、今の仕事に大いに役立っていると思います。人がどんな話題や演出で楽しく感じられるのかというのを常に意識して活動していたように思います。

特に女性は、その時代の流行に対する感度が高いですし、男性とは違う見方をされますので大いに勉強になりました。もし自分の好みの女性に出会えれば、勇気を出して積極的にアプローチしてみたいと思います。今の時代のように携帯電話もありませんでしたので置き電話や手紙を通して自己アピールをしていたように思います。

実は、この異性に対するアプローチこそ今の仕事に一番生かされているように思います。好きな女性が現れたならやはりその女性が何に興味があり何を考えているのかを真剣に考えるとと思いますし、自己



西本 恵三

株式会社KRYサービスステーション
代表取締役社長

中心的で的外れなアプローチを何回繰り返してもなかなかうまくいかないと思います。

実は、この「好きな女性」とお得意先、新規顧客も同じことで一生懸命相手のことを考え、深く理解することで最適なご提案ができると思いますので勇気を出してアプローチして欲しいと思います。最近、営業活動において新規開発が苦手な若者が多いと思いますので恋愛を通じて「自己修練」ができますので頑張ってください。私自身のアルバイトも2年生中盤くらいから喫茶店、居酒屋で働き接客と厨房での料理を経験しました。社会の一部分を垣間見ることができるのでぜひ経験して欲しいと思います。

くれぐれも学生の中心は、学業ですので気をつけてください。

というように特に変わった学園生活ではありませんが、自宅に引きこもらず、外に積極的に出て行きさまざまな人に出会ってさまざまな体験をしてたくさんの思い出を作ってくださいね。

企業紹介

【株式会社KRYサービスステーション】

弊社は、山口県で最初に誕生した広告会社です。お陰を持ちまして54年の歴史を刻んで参りました。現在、売上・事業規模は山口県最大にして、各ジャンル最多の実績を更新し続けております。

弊社は、広告活動を通じて自己実現を目指し、社会貢献し、世界平和に寄与できるよう日々精進して参る所存です。皆さまと感動を共有できることを心より楽しみにしております。

<http://kryss.jp/>



未来へ向かう皆さんへ！

山口大学の皆さん、こんにちは！充実したキャンパスライフをお過ごしですか？

「就職活動」では、恐怖と言っても過言ではない状況が皆さんを襲っているのでは？と感じています。というのも、年々活動開始時期が早まり、そして市場からは即戦力的な要求が高まり、「『自由な時間』と『ないお金』の狭間」という大学生独特の空間を存分に味わう心のゆとりが奪われているように思えてならないからです。

「今時の学生は…」という言葉をよく耳にしますね。大抵はネガティブな表現です。聖徳太子が晩年「今の若い人は常識も薄れているし作法も悪い。この先わが国はどうなるのであろうか？」と側近に嘆いたという話をご存知ですか？いつの世でも若者はどうしても頼りなく見られてしまうものであって、世代が送られ交代していく過程での必然であり、焦ったり落ち込んだりする必要は全くありません。若者にとって大切なことは「今」を大事に生きる、その時にしかできない経験をたくさんするという事です。

私は新入社員を「偉大なる素人」と呼んでいます。どっぷりと世間や業界に漬かってしまった我々には見えない・感じないものを教えてくれる大切な感性です。それを下手な業界知識や未熟なスキル（就活のための付け焼刃）で鈍らせて欲しくないと思っています。あなた方の価値は「世間を知らない」



豊島 貴子
株式会社中国警備保障
代表取締役社長

ことです。知らないからこそ出せる感想や意見は未来に向かう人類への大きなヒントであり、それをチャンスに変えていくのが会社＝企業なのです。チャンスに掴むには知識と経験が不可欠であり、一朝一夕には得られません。新人と中堅そして管理職や経営者それぞれの立場と役割がミックスされ、大きなエネルギーを生み出し実現できるものです。

仕事は決して楽ではないけれど、楽しくなければ生きていく活力にはなりません。楽しいって何？ネットではなく、どうぞ色々な会社に自分の足で行ってみてください。きっと答えが見つかるはずですよ。勿論わが社へも！皆でお待ちしています。

企業紹介



【株式会社中国警備保障】

1979年創業。トータルセキュリティ産業としての拡大成長を図り、人の温かみのあるサービスを提供するという経営方針の下、創業以来30年間増収増益を続けています。本年度は広島県への進出を果たし、今後さらなる飛躍を実現するため、社員全員で日々活発な営業活動に取り組んでいます。

<http://www.cgs1.co.jp/>

人との「つながり」を大切に

教員になって5年目。現在、山口県萩市立明倫小学校で、2年生の担任をしています。毎朝、吉田松陰先生の言葉を、元気に朗唱する子どもたちの声が響く伝統ある校舎。忙しいながらも、たくさんの笑顔に囲まれて、子どもたちと一緒に学びながら楽しく過ごす毎日です。



木原 陽子

山口県萩市立明倫小学校 教諭
平成17年3月 大学院教育学研究科修了

山口大学での日々

私の在学中は、2年生になると、小学校と中学校のどちらを主免許にするかを選択するようになっていました。私は、はじめ中学校教員を志望していたので、授業もそれに合わせて受けていました。しかし、せっかく勉強できるのだからと思い、小学校も1種免許で取ることに。そのうち、中学校の家庭科も…と、どんどん授業を埋めていったので、空きコマはほとんどなかったように思います。息つく間もない日々でしたが、「絶対に先生になる！」と想っていた私にとって、将来の選択肢は、ずいぶんと広がりました。

今は結局、小学校免許しか必要ありませんが、その時の私は、免許だけでなく、人との「つながり」も得ることができました。いろいろな授業を通して、他教科の先生方や学生さんと知り合えることができたのです。

「つながり」を大切に

在学中に出会った現役の先輩・先生から、よく「人とのつながりを大切にね。」と言われていました。その先生方とは、教員になった今も、国語科の授業研究会で一緒に勉強をさせていただいています。特に、現場で働き出してから、この「つながり」にずいぶんと助けられてきました。悩んでいる時、苦しんでいる時はずっと、嬉しい時も分かち合える仲間がいることは、何ものにも代え難い大切な宝物です。

大学を去った後にも、在学中にお世話になった大学の先生方から、ちよくちよく連絡があります。教員採用試験を控えた後輩から、勉強の仕方を相談されたこともありました。ここぞという時に、「そうだ！あの人がいた!!」と、頭の中に思い浮かべてもらえるのは、とてもありがたいことです。

これからをつなぐ皆さんへ

私は、山口大学で教員としての知識を授けていただいたと同時に、自分はどんな人間かを考える機会をいただきました。大学には、国内外からさまざまな立場や年代の人が集まってきます。その人たちとたくさん語り合って、「つながり」を作ってください。それは、授業という場に限らず、大学のいろいろなところにその機会があるでしょう。多様な考え方にふれることで、自分とはどんな人間かも見えてくるはずですよ。良いところも悪いところもひっくるめて「自分を語れる人間」はとても魅力的だと、私は思います。

若い皆さんには、人との「つながり」を大切に、自分に自信をもてるよう、自分なりに模索しながら、そして、楽しみながら大学生活を過ごしてほしいと願っています。

職場紹介

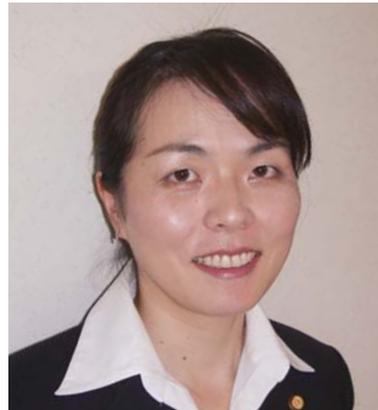


授業中の写真

【萩市立明倫小学校】

自分から学んでいますか？

こんにちは、山口大学経済学部卒業生の中村典子と申します。現在、弁理士をしています。弁理士とは、特許庁に対する特許権・商標権取得手続を代理したり、侵害訴訟で弁護士と共同して訴訟代理をする仕事です。



中村 典子

特許業務法人 山王坂特許事務所 弁理士
平成5年3月 経済学部卒

私の就職活動

授業はほぼ毎回出席し、単位も1回も落とすことなく大学生活を送っていましたが、就職活動をする時期になって、履歴書に書けるほどの自己PRがなく啞然としました。授業に出席するだけでは何も身に付いていないことに、そのときやっと気がついたのです。空っぽの私を埋められる、何か手に職のようなものが欲しくて、弁理士試験を目指しました。

仕事と試験勉強の生活

卒業翌年から、会社勤務と同時に試験勉強を始めました。平日は22時～午前2時まで、土日祝日は12時間、一次試験直前の1カ月間は、毎日、朝昼晩の食事時に、健康食品だけを食べながら勉強しました。4回目の受験で合格しました。

弁理士試験に合格したもの…

結婚・出産・転職とライフステージが変化する中で、資格にはずいぶん助けられました。一方で、クライアントに喜ばれる仕事をするためには、資格だけでは足りず、クライアントごとの事情と製品の理解が必要で、試験に合格しても息をつく間もありません。しかし、発明者の努力の結晶である発明を、模倣から守るための特許戦略に関わらせていただくことに感謝しています。そして、この感謝に対し、知財分野についてよりよい提案をすることで報いたいと、精進している毎日です。

そして今

弁理士の仕事についていえば、知財法の知識があっても、発明者・知財部の方から話を聞きとる力

(コミュニケーション能力) や、必要な情報や知識を自ら学ぶ力がなければ、お客さまのお役に立てることはできないと思っています。その意味で、資格で保証される能力は、仕事に必要な能力の一部にすぎません。学生の皆さんには、授業をきっかけに自分から調べたり考えたりする訓練と、先生方や友達、アルバイト先の方との関わりを通して広い年齢層の方とコミュニケーションできる力を身に付けてほしいと思います。同時に、仕事に使えるような資格にチャレンジして、就業意欲をアピールできるポイントを作ってみられたらいいかと思います。

学生の皆さん、授業を受ける以外に、資格取得や読書等、自ら学び、考えていますか？受け身だけでは、就活の履歴書に書ける程のものは得られません。即戦力になり得る知識と、人格を下支えする教養を、大学生のうち身に付けてください。自戒を込めたアドバイスです。

職場紹介



仕事風景

【特許業務法人 山王坂特許事務所】

大学生のうちに好きなことを徹底的にやれ!!

自分のやりたい仕事を通して社会に貢献する公務員の仕事はいかがですか？

はじめに

山口大学生の皆さま、はじめまして。部活やアルバイト、ゼミなどで充実した日々を送っているのではないのでしょうか？

私は山口大学大学院農学研究科出身で、民間企業を経験した後に退社し、現在は兵庫県上級職員（農学職）として豊岡農業改良普及センターに勤務しています。豊岡市には日本で唯一コウノトリが野生で生息しています。同センターでは現在「コウノトリ育む農法」という環境に優しく、生物多様性を向上させる農法を展開しており、当農法で作られた米は「コウノトリ育むお米」として安全安心を求める消費者を中心に人気になっています。

公務員試験の概要

兵庫県上級職の試験には一次選考として筆記試験、二次選考として二度の面接、プレゼンテーション試験がありました。私が公務員を目指そうと思った時にはすでに民間企業で働いており、試験まで3カ月しかありませんでした。競争率は約10倍、会社を辞めて自宅にこもり、筆記試験の勉強を毎日10時間以上行いました。以前他県に合格した友人は、誘惑を断つためテレビにガムテープを貼りました。そんな姿を見てきたので、徹底的に勉強するほか合格の道はないと思っていました。試験直前には10冊ほどの問題集は全て内容をすらすら話せるほどになり、なんとか筆記試験を合格することができました。二次選考の面接等は民間企業の採用試験と同様の対策で臨み、無事に合格できました。

試験の第一関門である筆記試験は、そこまで難しくはないのですが出題範囲が膨大で、全く知らない問題が出題されるとお手上げになってしまいます。少しでも多くの範囲を勉強すると有利なので、公務員を志す方は一日も早く、この広報誌を読み終わったらすぐに勉強を始めてください。

学生時代に好きなことに徹底的に取り組む

学生のうちは自分のやりたいことを徹底的にやってください。それは研究や部活、趣味など、何でも



本田 理
兵庫県但馬県民局
豊岡農業改良普及センター
平成19年3月 大学院農学研究科修了

かまいません。何かに徹底的に集中することで人間性が磨かれていきます。私は学生の時分、空手道部に所属していました。週6回の夕練と週3回の朝練。それでも全国大会で勝つには練習が足りず、授業の合間などに自主練をしていました。授業をさぼって練習することも日常茶飯事でした。今から考えると将来を見据えて勉強した方が賢かったかもしれませんが、空手一筋だった大学生活に後悔はありません。

公務員も民間企業も入った後はどこも同じ。職場では人間性が問われます。大学生のうちに好きなことを徹底的にやって人間性を磨き、どこに行っても通用する社会人を目指してください。

職場紹介



水稲の生育調査
(筆者左)

大豆畑に生息する昆虫の分類

**【兵庫県但馬県民局
豊岡農業改良普及センター】**

今から始める就職活動

山口大学の皆さん、はじめまして。(株)日立製作所の長瀬と申します。皆さんが希望する職種へ就くために今からできることについて、お話ししたいと思います。



長瀬 裕和

(株)日立製作所 公共システム事業部
平成12年3月 大学院理工学研究科修了

<Step 1> 世の中を知る

皆さんは、毎日何気なく生活している我々の身の回りを支える全ての事象（電気やガスを使う事ができたり、コンビニに行けばおむすび1つから買える等）について、じっくりと考えたことはありますでしょうか？これらは全て、誰かの仕事のおかげで成り立っています。ちょっと、視点を変えてそのように世の中を眺めて見てください。どうやって、それが成り立っているのか興味の出てくるものがあるはずです。次に、その仕事について、あらゆる手段で調べてみてください（例えば、就職支援室）。きっと、その中から自分がやりたいと思える仕事が見つかります。

<Step 2> 自己を知る

皆さんは、自分の性格や特徴を客観的に捉えたことはありますか？私自身、自己分析を真面目にやったのは就職活動の時でした。しかし、これは就職の直前にやるものではなく、入学1年後までにやるべきだと考えます（市販本等手段は多数）。それは、次のステップである「自己を磨く」作業について、時間をかけて実施するためです。

<Step 3> 自己を磨く

Step 1で見出した興味ある仕事を行う事を想像しながらStep 2の結果を重ね合わせてみてください。自分の性格に合っているか、または何が足りないかが見えてきます。職種によっては、英語が必要だったり、特別な資格が必要であったりさまざまです。そして、それらは大抵、習得に時間のかかるものです。ですから、早めに上記2 Stepで何をすべきか見

定めるのです。

そして、どのような職種においても必ず必要であり、また就職面談において最も重視されるもの、それがコミュニケーション能力です。これこそ一朝一夕には身に付かないスキルです。大学時代には、アルバイトやサークル活動、研究室といったコミュニケーション能力を育成する場がたくさんあります。そのような場から遠ざからずに社会へ出るための訓練だと思って、積極的に参加してください。絶対は無駄にはなりません。

職場紹介



日立製作所公共システム事業部

【株式会社日立製作所】

2010年に創業100周年を迎える日立は創業以来、企業理念の「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」ことを実践してきました。コーポレートステートメントに「Inspire the Next」を掲げ、次の時代に新しい風を吹き込む企業へと、さらなる進化を目指しています。

<http://www.hitachi.co.jp/>

就職活動を終えた学生からのメッセージ

～後輩たちへ～

「出会えてよかったと思えるモノ・人を作る」

私は4年間オープンキャンパスの学生企画を実行する中で、ゼロだった“モノ”が自分の発想から作られていく楽しさ、やりがいを感じたことがきっかけとなって将来も、自分の発想・熱さを売ることのできる、「企画に携わる仕事」を選びました。お金にならないことをなぜ時間と労力をかけて一生懸命にしてきたのか、と自問してみても、一緒に作り上げていく家族のようなメンバーとの出会いや、自分はこんなことをしてきた！と熱く語れる生活を、お金の代えることはできません。「今、大学生だからできること、自分だからできること」に取り組んでいってください。本当にやりたいことを見つけるきっかけを持っているはずですよ。



人文学部・女性
マーケティング業界内定

「ネタ作りをすること！」

企業のエントリーシートや面接では、学生時代の経験について聞かれることが多くあります。サークル、アルバイト、ゼミ、旅行…何でも構いませんが、とにかく幅広くいろんなことにチャレンジすることが大切だと思います。「学生時代に力を入れたことは？」「趣味は？」と聞かれたとき、しゃべれるネタをたくさん持っているとう利です。特に人と違った面白い経験があれば◎。とにかく「よく学び、よく遊べ」精神で、これぞ大学生！な毎日にしてください（笑）



人文学部・女性
製薬メーカー内定

「経験は人生の視野を広げる!!」

私は、学校関係のボランティアをしたりしていました。今思えば、もっと定期的に小学校のチューターなどの経験を積んでいたらよかったですと思います。机上での勉強だけでなく、現場での経験は得るものが大きく、自分の夢を叶える上でどこかで生きてくると思います。また、自分を磨く素敵なチャンスだと思います。私は国際交流をすることが好きなので、留学生とのキャンプに参加したり、今年には中国人のチューターを引き受けました。先日はドイツのイベントに参加したり、アルバイト先にも留学生がいるので異文化とつながる楽しさを日々感じています。機会があれば、ぜひ自分の視野を広げてみてください！

教育学部・女性・小学校教員内定



私は、大学入学以前から小学校の教員を志望していました。大学での目的がはっきりしていたにも関わらず、当初は大学の講義以外の活動にはあまり積極的ではありませんでした。今思うと、もっと積極的にその目的に沿った活動(サークル等)をしておけばよかったと思います。それは、活動をしてみて、経験が自分の糧になるということが分かったからです。失敗もたくさん経験しますが、実際にやってみないとわからないということが実感としてわかりました。

1～2年生のうちには自由に使える時間がたくさんあるでしょうから、自分が少しでも興味をもったことは積極的に取り組んでもらいたいです。それがもし本来の目的とは違っても、何かの形でいつか生きてくるはずですから、どんどん挑戦してください。最初からうまくはいきませんが、失敗は悪いことではなく次へのステップだと考えれば、ポジティブに取り組むことができると思います。皆さん、これから頑張ってください。

教育学部・女性・小学校教員内定

就職活動を通して、1～2年生のうちからもっとしておけばよかったことは2つあります。1つ目は「業界研究」です。私の場合、就職活動が始まってからその研究を始めていたので、どうしても自分の興味がある業界しか調べることができませんでした。もっと早いうちにいろいろな業界を見ていれば、社会の流れも分かるし、もしかしたら自分の興味関心が変わったかもしれません。少しの時間でもいいので、業界のこと、仕事のことを調べる時間を作ることをオススメします。もう1つは「経験値」です。就職活動、特に面接ではどれだけ印象に残れるかがカギです。ボランティア活動、留学、インターンシップ、サークル&部活等、受身にならず1～2年生のうち

に色々な経験をしましょう。きっと自分の価値観・アピールポイントが見えてくると思います。

経済学部・男性・旅行業界内定



①失敗を何かのせいにしないこと。問題は自分にあることを意識すること

⇒私の場合、部活において自分に言い訳をする時は「まだポジション変わったばっかじゃし」とか、アルバイトにおいては「今日お客さん多くて焦ったし」とか口には出さなかったですが、どこかで言い訳をしていました。でも、そういうのはいつまでも通用するわけがありません。だったら、自分という人間を理解して、部活だったら自主練習とか、アルバイトであればゆっくり確実にするとか対策を考えてやるべきことに早く気付けばよかったと思います。

②人からのアドバイスを素直に聞くこと

⇒自分を叱ってくれる人は大切にすべきと感じます。理由は、そこで初めて自分の甘さを客観視できるからです。私は、2年生の時なかなかそれができなくて、部活・アルバイトにおいて上達が遅れていたと思います。

※あくまで私の価値観です。これらを意識しはじめて気付くことで、私の生活は少しずつ変化してきたので書かせていただきました。

経済学部・女性・商社内定



私が1～2年のときにやっておけばよかったこと、それはもっと農業を体験しておけばよかったということです。私が1～2年の頃は、生活のほとんどが部活でした。そのため、授業以外で農業を体験したことはなく、身内以外の農家さんとも接したことはありませんでした。これは県庁の面接の時にマイナスになってしまい、痛い思いをしました。一つのことには打ち込むことも大切ですが、うまく時間を使って、いろんな経験をするのも同じくらい大切なのだと実感しました。

農学部・女性・地方公務員内定

私は、学部1年生時に「就活Information」という学内冊子の制作に携わりました。就職活動とは単に履歴書と面接だけだと思っていましたが、多くの就職活動を終えたばかりの先輩方に話を伺うと、まずリクナビなどのサイトに登録、履歴書の前にエントリーシートを書く、面接は1回ではなく何回もあることなどをそこで初めて知りました。しかし、1年生の頃に流れを把握できたので、大学院でも慌てることはありませんでした。皆さんも先輩方に話を聞くことが大切だと思います。

工学部生は半分ぐらいの方が大学院に進学をされると思いますが、進学予定でも3年生の時に就職活動をしっかりしておいた方がよかったです。なぜなら、3年生は冬休みがありますが、院生になれば研究等で休みはほとんどありません。そのため、多くの業種の説明会に参加しにくいのが現実だからです。

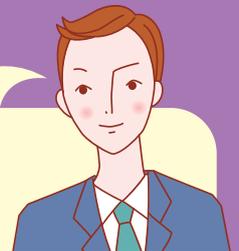
理工学研究科・男性
鉄鋼メーカー内定



私は1～2年生の頃、部活と勉強の両立に力を注いでいました。

なので、授業と部活が両方休みの日には考え事をするような時間も取れました。それはそれで自分を振り返る良い時間となりましたが、もっと旅行などに行っておけば良かったと思っています。これからでも行けない事は無いのですが、今考えると1～2年生時が、1番時間に余裕がありました。旅行は普段見ない世界を見つめる事で、自分の視野を広げるのに最適だと、今になって思うからです。

農学研究科・男性・国家公務員内定



大公開!

山口大学の学生支援施設



講師 辻 多聞
学生支援センター

さまざまな経験を力に変える

社会人基礎力とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」といった職場や地域社会で働く上で必要な力のことです。現在、社会（企業）はこの社会人基礎力を就職希望者（大学生）に求めています。しかしその育成方法に最短距離や最善方法があるわけではありません。大学時代という膨大な自由な時間を自分でアレンジし、時には回り道もあるでしょうが、さまざまなことを楽しみながら経験して、そしてふりかえることで社会人基礎力、そして自分の力を育成していただきたいと思います。さまざまな経験のきっかけ、ふりかえりで生じた壁を壊すきっかけが、就職支援室や自主活動ルームにきっとあるはずです。

就職支援室

就職支援室で“働く”ことをもっとリアルに！



私たちがサポートします！

求人票を閲覧する、面接の練習をする…。就活真っ只中の3～4年生・大学院生たちが就職支援室にはたくさん来ます。でも、ここはそれだけではありません。“働く”を研究する書籍コーナーで本を読んだり、日経テレコン21でビジネストレンドを調べたり…。就職支援室は、大学生が将来の自分を考えるための学びの拠点でもあります。働くことをしっかり理解して社会へ羽ばたいていけるように、1～2年生の皆さんもどうぞ気軽にお越しください。



書籍コーナーでは、就職活動のハウツー本だけでなく、“働く”に関する本もたくさん置いてあります。

詳しくは<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~hirao/oshirase/hataraku>



日経テレコン21で情報検索中。日本経済新聞のほか日経四紙の記事のデータベースが搭載されています。気になる新聞雑誌の記事や企業情報はここでチェック！



山口県若者就職支援センター（愛称：YYジョブサロン）の方も訪れ、学生の就職相談を受けることも。

山口県若者就職支援センターホームページ<http://www.joby.jp/>

告知!



場所は情報ラウンジ横

総合図書館内に「キャリア学習・就職活動支援コーナー」を設置

吉田キャンパスの総合図書館内に、就職活動に関する情報を集めた特設コーナーが設置されることになりました。このコーナーは、図書館で学生協働活動をしている学生と、目先の就職だけでなくキャリア形成や職業観を育ててほしいと願う大学の希望が一致して実現したものです。長い人生の中で“働く”ということはどう位置づけるかのキャリア学習ができ、就職支援室や各学部の就職支援の取り組みについても分かるようになっていきます。本や雑誌の貸し出しも可能で、12月初旬にオープン予定です。皆さんもぜひご活用ください。

自主活動ルームから始めよう！

自主活動ルーム

共通教育棟の1階にある自主活動ルームをご存知ですか？そこでは、学生の皆さんにボランティア活動、地域社会との連携活動、正課以外のいろいろな社会体験の情報を提供しています。「何かしてみたい」「いろいろな人と出会いたい」という思いを持つ学生が、新しい自分を発見し創造性、自主性、社会性を高めることを応援するために「相談」「コーディネート」「物品貸出」「おもしろプロジェクトの推進」などを行っています。子どもと触れ合いたい、自然を体験したい、国際交流をしたい、知識を身に付けたい、学内でボランティアをしたい、そんな学生たちが訪れています。

自主活動ルームから生まれたサークル

こうした「何か」を見つけないか、かたちにしたいという学生たちの相談の中から、さまざまなサークルが生まれてきています。学生の立場で身近にできる国際協力を考える「cheka」、障害児やその保護者との交流を通して学ぶ「BEING FREEDOM」、山口大学の今を残すために地図を作成する「MAPPY」などです。学生たちは、それぞれのサークルの運営や地域社会の人たちとの活動を通して正課内授業だけでは得られない体験をし、人間として一段と大きく成長していきます。自主性と創造性が生まれ、自ら考えて行動する資質が身に付くことは、卒業後も社会での暮らしに大きく役立つことと思います。



国際系サークル「cheka」のメンバーとミーティング



高見 早苗

自主活動ルームコーディネーター
学生支援課支援企画係

自主活動ルームから飛び立った先輩たち

相談に来る学生の中には、将来の夢や就職活動に関して悩んでいる人もいます。「公務員の仕事のイメージがわからない」「民間企業ができる社会貢献活動はあるのか」「どうすれば海外ボランティアに参加できるのか」。こんな学生には、県民活動支援センター、社会起業家、国際協力団体などを紹介しながら自主活動の助言をします。地域社会の人たちや仲間との交流の中で「何か」を見つけた先輩たちは、社会に役立つ仕事として公務員に誇りを持ち、金融機関に勤務しながら市民活動に取り組み、青年海外協力隊員として海外で活躍し、それぞれが個性豊かな生き方をしています。皆さんにも、ぜひ続いてほしいと願っています。私たちスタッフが皆さんを待っていますので、どうぞ自主活動ルームにお越しください。



「おもしろプロジェクト」や地域でのボランティア活動等に関する情報がたくさん

人文学部

人文学部

教育学部

経済学部

人文学部と就職

教授 人文学部 太田 聡

医学部や教育学部のように特定の職業人の養成を目指す学部や、工学部や経済学部などの応用系・実学系学部とは違って、文科基礎学問系である人文学部は、「就職」ということに一番縁遠いという印象を与える学部かもしれない。

しかしながら、入学式後の保護者会や夏の後援会総会などにおいて、保護者の皆さんから最もよく質問される事柄の一つは、やはり就職に関することです。我が子の将来が気にならない親御さんなどいるはずがありませんから、当然なことだと思います。

こうした期待・要望に応える形で、人文学部も就職相談員・就職相談室を配置・設置して、いつでも就職に関する相談に応じ情報提供ができるように努めています。また、学部独自で、就職関連のさまざまな講演会・講座を専門の講師の方々を招いて定期的に開いていますし、先輩たちの就活体験・アドバイスを聞く会なども催さ

れています。そして、学生支援センターや生協主催の各種就活関連行事への参加も、メーリングリスト等を利用して、在学生たちに呼びかけています。これらの支援は学生にはとても好評です。

ところで、就活のハウツーをせっかく身に付けて、どんなに聞こえのよい会社に就職できたとしても、その仕事は自分にはやっぱり合わないとすぐに辞めてしまうようでは、意味がありません。大学時代は、表面的な知識やテクニックを漫然と覚えるだけでなく、「自分は、何のために、どんな生き方をしたいのか？そのためには何をすべきなのか？」といったことをじっくり思索すべき時期でもあります。そして、そのように自己を見つめ直してみるには人文学部で学べる哲学や史学や文学などは、まさに有用な学問だと思います。つまり、一番就職に縁がないように見える人文学部での授業や研究が、自身の将来や仕事を考える上で最も肝要な部分を磨く機会になっているのではないのでしょうか。実際、人文学部の卒業生たちはそれぞれの個性や才能や夢や信念に応じて、幅広い分野の職種に就き、巣立っていています。

教育学部

教育学部の就職支援への取り組み

教授 教育学部 武田 賢治

教育学部では、就職支援部が中心になって学生の就職活動を支援しています。この就職支援部は教員6人、事務職員2人、各教室の就職担当教員、顧問および協力員を合わせ、36人から構成されています。教育学部には教員養成課程と非養成課程の性格の異なる課程がありますので、支援活動は教員採用試験対策と公務員・企業就職対策を2本柱としています。主な活動内容は以下のとおりで、年間を通してきめ細かな就職支援を行っています。

【教員採用試験対策】

①教員採用直前セミナー(講義、体育・ピアノ実技、模擬面接・集団討論、模擬授業、合計11回)、②学内模擬試験(通年、原則週2回)、③公開模擬試験(前期2回、後期2回)、④教採対策講演会(11月)、⑤教職ポイント講座(後期・12コマ)、⑥小学校全科ビデオ講座(後期・26コマ)

【公務員・企業就職対策】

①就職相談コーナー(就職アドバイザーによる、月2回)、

②就職ガイダンス・就職対策講演会(5月、11月)、③職業適正検査・結果説明会(6月、7月)、④公務員採用試験体験報告会(人文学部、学生支援センターと共催)、⑤エントリーシートの書き方(11月)、⑥模擬面接・集団討論(1月)。今年度は新たにOB・OGによる業界・企業研究会を企画しています。

【就職情報の広報】

行事等を掲載した「就職ガイド」を毎月2回程度発行しています。さらに、教育学部宛に届いた求人情報を3・4年生に毎週メールで配信し、また、就職活動に関連するさまざまな情報を就職支援部のWebページ(<http://www.edu.yamaguchi-u.ac.jp/~syusyoku/>)で提供しています。

学生の皆さんには、就職支援部が実施するさまざまな企画に積極的に参加し、就職活動の一助にいただければと思います。“Chance favors the prepared mind”(チャンスは、心構えした者のもとへ訪れる、Louis Pasteur)の言葉にあるように、周到な準備があってこそ希望は成就されるものです。この言葉を心に留め、充実した大学生活を送ってください。

経済学部

経済学部での就職活動の取り組み

教授 経済学部 城下 賢吾

1. 就職までの手順

今年の大学生の新卒採用の求人倍率(求人総数÷民間企業就職希望者数)は昨年と比較して低下したものの、1.62倍の水準を維持しています。これは、えり好みをしないならば、すべての学生が就職できる数字です。今後の経済状況にもよりますが、最低限この数字は維持してほしいものです。



昨年のOB・OG懇談会の様子

経済学部ではOB・OG懇談会を皮切りに、企業説明会、面接という順番で3年生の就職活動が進行していきます。OB・OG懇談会ならびに企業説明会は企業の広報活動の時期なので、この段階で学生の内定が出ることはありません。学生にとっては企業研究の時期にあたります。講義のない時間帯を利用して、積極的に参加しましょう。

2. コミュニケーション能力と学業の両立

就職内定が出るかどうかは、年明けの3月前後から始まる面接選考で決まります。そこでは、面接官とのコミュニケーションを通じていかに自分自身を表現できる

かが大事になってきます。学内外にネットワークを広げて、自分自身で意識して、表現能力、人間としての魅力や人脈を広げましょう。経済学部や全学が提供するキャリア形成講座を受講するのもよいでしょう。

就職するには、コミュニケーション能力だけではなく学業とのバランスが大事です。どちらかを欠くと、なかなか就職が決まりません。学業については、経済学部では3年生までに卒業論文を除く卒業要件単位の修得を学生に指導をしています。ただし、講義内容がどれだけ身に付いたかが大事です。キャリア教育の専門家である下村英雄氏は日本経済新聞紙上(2009年7月20日)で、就職に有利な学生は、大学の講義で行なう抽象的な概念や専門知識や情報を身に付けた人であると指摘しています。

3. 新たな試み

最後に、就職内定の鍵として同窓会の存在を重視しています。卒業した先輩を通じて就職内定を取るケースが散見されるからです。経済学部は長い歴史を持つ同窓会組織である鳳陽会があります。学部と鳳陽会の連携は非常に重要なもので、学生の就職支援をさらに強化してくれるでしょう。



昨年のOB・OG懇談会の様子

理学部

理学部の就職支援は二人三脚！

教授 大学院理工学研究科 数理科学分野

増本 誠

扇の要

人文・理学部管理棟の入り口からまっすぐ進んで中程の左手にそれはあります。学生支援室です。主は人なつっこい笑顔が印象的な昔気質の河村憲生さん。山口大学に長く勤め、学生の気質を知り尽くしたベテランです。ときには厳しい言葉を交えながら、親身になって学生に就職情報を提供し、学生からの就職相談に応じています。

また、理学部は、数学・物理・化学・生物・地学・情報の6分野で構成され、幅広く教育と研究を行っています。各分野から選ばれた教員で構成される就職委員会が、就職支援室と二人三脚で就職支援に携わっています。

狙いを定めて

学部生の就職活動は、3年生の後期から始まります。大学院生も同様に修了1年半前から就職活動が始まります。そこで、理学部就職委員会では、今年度の秋と冬の2回、企業の採用事情に詳しい人を招いて、就職講演会を開催することにしました。就職活動の心得、エントリーシートの書き方、といったことについてお話しいただく予定です。全学の就職支援室でも同様の企画がありますが、ここでは理学部生向けのお話ができるものと期待しています。

なお、理学部就職委員会は以前から鴻理会（山口大学理学部同窓会）と二人三脚で、社会の第一線で活躍中の理学部卒業生5～6人を講師として招き、在学生との就職座談会を開催しています。講師と直接やりとりできることから、好評を博しています。

今年度はさらに全学の就職支援室と二人三脚で、春先に、大学院進学予定者を対象とした就職準備講座も企画しています。このように、理学部では多くの方々の協力を得ながら学生の就職支援をしております。

一生の宝

理学部での教育の特徴は、原理・原則から考え、それを活用することのできる人を育てる点にあります。「マニュアルに従う」だけでなく「マニュアルを作る」ことのできる人になってほしいと願っております。理学部の卒業生は即戦力ではないかもしれませんが、しかし、環境の変化に柔軟に対応し自ら学ぶ能力が身に付いていると確信しています。



河村就職相談員(右)と筆者

理学部

医学部

保健学科のキャリアデザイン三事情

教授 大学院医学系研究科
地域・老年看護学分野

山崎 秀夫

学生事情

保健学科の卒業生は、保健医療従事者として社会に巣立っていきます。その前提として、全ての学生に国家試験（看護師・保健師・助産師・臨床検査技師）に合格することが求められます。学生にとって卒業年次は、就職・国家試験・卒業研究の「三本の矢」を束ねる勝負の年でもあります。矢を束ねた学生は、志を立て、逞しく、緊張感を持って、新たな人生への第一歩を踏み出していきます。

就職事情

このような卒業生を取り巻く就職状況は、保健学科の場合、総じて良好な状況にあります。卒業生の多くは、大学病院（ほとんどが旧国立大附属）あるいは総合病院への就職を希望し、それを実現させています。最近では、行政（保健師等）への就職希望、大学院への進学希望が増える傾向が認められます。当然、他学部同様、公務員試験や進学への対策が求められています。保健学科の就職事情は、おおむね「売手市場」の様相を呈しています。

取組事情

しかし、学生個々に就職事情をみると、それぞれに難しい問題を抱えている実態があります。そのような問題へは、キャリアデザイン委員と学年担任が連携して個別対応しています。「木をみて森をみる」をモットーに、実効ある「ほうれんそう」（報告・連絡・相談）の展開を心掛けているところです。全体的取り組みでは、各学年において、進路（就職・進学）関連のガイダンス・説明会・講習会・個人面談等を実施しています。今年度の新たな取り組みとして、「キャリアデザイン」を授業科目に位置づけました。また、学生が病院担当者から直接説明を聞き、仕事への理解を深め、将来のキャリアデザインに役立てられるようにと、「病院合同説明会」を小串キャンパスで開催しました。

最後に

「売手市場」傾向の今だからこそ、教員が学生の就職ディマンズ（需要）をしっかりと受け止めて、就職ニーズとして学生に示すという姿勢が問われていると認識しています。加えて、さらなる「市場開拓」にも継続的に取り組んでいるところです。



病院合同説明会の風景

医学部

工学部

工学部の就職活動および指導

教授 大学院理工学研究科 安全環境学分野
兵動 正幸

1. 今年の就職状況

工学部は、各学科ともに大学院に約半数の学生が進学をしますので、就職希望者は、学部4年生半と大学院修士課程2年生の学生です。今年の就職は、リーマンブラザーズの経営破綻をきっかけとした世界不況の影響を受け、特に製造業関連で厳しい状況にあるようです。しかし、一方では、団塊の世代が定年退職を迎え、技術者不足に陥ることで積極的に求人を行う企業も多く、建設系などでは比較的順調に就職が決まっている状況です。また、公務員も募集人員が増えており、比較的多くの合格者を出している状況にあります。

2. 工学部での就職指導状況

工学部全体としては、本部学生支援センターの主催で、学内業界・企業研究会を11月から7～8回行っています。また、工学部独自でも(株)毎日コミュニケーションズ、(株)リクルート、うべ若者サポートステーションから来ていただいて就職相談会を開いています。しかし、工学部では基本的に就職は、各学科で専門性を生かして、就職指導、会社説明会、入社試験対策など懇切丁寧な指導が行われています。従来は、工学部の就職は学校推薦により1社に1、2人を推薦し、先方も大学との関係を重視してほぼ確実に採用していました。最近是一般公募制の会社が増えつつあります。しかし、まだ指定校制度や学校推薦制の企業もかなり多くあります。このような情報は、学科の就職担当に集

まりますので、学生は学科の就職担当の先生と密にコンタクトするのが最も良い方法です。しかし、学生の中にはそれを勘違いして、独自で各地の就職説明会や一般公募の会社を手当たり次第受けている者もいます。これは、極めて非効率であり、うまくいかないケースが多くあります。学科の就職担当の先生に相談することが最も重要なことです。

3. 大学院生の方が就職に有利

近年の技術の高度化に対し、工学部ではより高度な技術を身に付けて意識を確固たるものにして社会に出た方が良いという考えから、4年生の学生には、大学院に進学することを勧めています。会社の方も大学院生の方を好む傾向も増えてきています。大学院生と学部生の違いは明確で、しっかり技術を身に付け、意識の高い大学院生の方が就職試験でも有利なことは言うまでもありません。学生には、より高い専門性を持って、しっかりした目的意識を持って就職に臨むよう指導しています。



昨年度の学内業界・企業研究会の様子

農学部

農学部の就職活動支援

教授 農学部 生物機能科学科
滝本 晃一

学生たちにとって就職は、学生時代の総括のようなものです。かつてバブル期には、すぐに内定をもらえるという夢のような就活がありました。就職氷河期に入って採用は極端に厳しくなり、学生たちは就職先を求めて企業巡りをすることとなりました。ただやみくもに動き回って、時間とお金と気力を消耗する学生が多かったように記憶しています。

8年ほど前に、学部で初めて就職セミナーを行いました。企業とは、求める人材とは、働き方、業務内容、採用方法などについて、企業の採用担当者に話をさせていただきました。参加者はかなり多く質問もあり、特に最終学年に至る前の段階での導入教育等のきちっとした手引きが必要だと痛感しました。

本年7月に、学部就職委員会主催で、学部3年生と5年生および大学院修士課程1年生を対象に、平成21年度第1回就職支援セミナー「スムーズに就活に入るための就職支援セミナー」を開催し、(株)毎日コミュニ

ケーションズ九州支社就職情報事業部の企画広報部長を招いて、「農学部の就職活動 今から何をすべきか」というテーマで話していただき、学部生と大学院生合わせて70人以上が参加しました。セミナーは大変有益で、特に理系の就職について色々な情報が得られたという意見が多くみられました。一方、進路や職種については、多くの学生が具体的なイメージが描けておらず、医薬系、食品系、公務員など漠然としており、まだまだ絞込みまでいっていないようでした。

最終学年に入っても進路が定まらず、受けようとする企業の業務内容すらも十分に調べずに手当たり次第にエントリーし、そのうちどこかが、という就活が見られます。具体的に整理して就活に向けて走り出せと発破をかけても、就活モードになっていない学生にとっては、どうやってよいのか戸惑うばかりでしょう。

学業を終えた後社会に出る、すなわち職に就くということは、それまでに受けた教育を社会に還元することです。社会に興味や関心を持ち、自分をつめるスタイルを入学後から身に付け、結果的に自分が何をしたいか、何ができるかを徐々に考えていき、スムーズに就活に入れるように導くキャリア教育が共通教育や学部の専門教育同様重要です。

工学部

農学部

留学生の就職支援の現状

教授 留学生センター 福屋 利信

我が国は「留学生30万人計画」において、外国人留学生が日本で就職し、日本で学んだことを生かしてもらおうと計画を進めています。山口大学も留学生の就職活動を強力にバックアップするために、留学生センターと就職支援室が協力し、就職情報の提供、留学生対象の就職イベントの開催等を行っています。

【留学生就職支援フェスタ イン・山口】

その中の一つ、平成21年8月11日(火)に開催された「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」は、西日本では初めての、大学が主催する留学生に特化したフェスタで、留学生103人が参加しました。最初に、東洋鋼鈹㈱の王海彬さん(経済学研究科修了生)が日本企業で働く元留学生としての体験談を語ってくれました。続いて、宇部興産㈱、㈱トクヤマ、東ソー㈱、山口井筒屋および東洋鋼鈹㈱から、各社の海外進出の実績や計画、外国人雇用等についてのプレゼンテーションが



企業別個別面談



体験談を語る
王海彬さん

あり、山口県経営者協会からはインターンシップについての説明がありました。最後に、参加企業・団体による個別相談が行われ、留学生たちは熱心に質問をしていました。留学生と地元企業のこのような交流は今まで無かったことで、このイベントがそれぞれをアピールする場、あるいは相互理解の場となり、留学生が地元企業へ就職するための橋渡しとなればと考えています。



企業のプレゼンテーション

また、留学生センターでは、本年12月25日(金)、日本の外国人雇用をリードするパナソニック㈱を中心に「第二回留学生就職支援フェスタ・イン・山口」を開催します。前回を超える留学生が参加してくれることを期待しています。

【留学生の皆さんへ】

他の多くの国と違って、日本では在学中に就職活動を行わなければなりません。まずはこの日本独特の就職活動を理解するために、就職に関するイベントには積極的に参加し情報を収集してください。留学中に就職活動はとても大変だと思いますが、留学生センターと就職支援室も皆さんを強力にサポートします。分からないことがあれば、いつでも相談に来てください。

連絡先: fukuya@yamaguchi-u.ac.jp
tel:083-933-5048

日本での就職活動



【私の就職活動】

私は、就職活動を平成20年の1月から始めました。まず、会社情報を得るためにインターネットの就職サポートサイトの登録から始めました。SPI試験の練習問題や面接の対策など、活用できるものがたくさんあります。興味がある会社が多数であれば、一括エントリーも可能ですし、特に説明会の情報がたくさん入ります。

【会社訪問やインターンシップ】

興味のある会社があれば、会社訪問やインターンシップに参加することがお勧めです。だいたい学部3年生や修士1年生の夏頃から行われます。参加する前に、しっか

大学院理工学研究科 博士前期課程2年 劉丹
内定先: アジア航測㈱

りと会社の方針や最新の運営状況を把握し、質問をいくつか用意した上で訪問した方がいいです。参加後は担当者の名刺を大切に保管し、何か質問があれば直接連絡します。質問をすると相手に強い印象が残りますので、今後の就職活動に大変有利だと思います。

【後輩へのアドバイス】

私たち留学生は、日本での就職活動のことは詳しくないので、まずは就職担当の先生に相談するのが一番確実だと思います。きっと良いアドバイスをいただだけます。私も勧めていただいた会社を希望し、内定をいただきました。もちろん、面接の指導も受けた方がいいです。

広がれ、仲間の輪！

～就職活動交流会を通じて出会う～

就職活動交流会とは？

「就職活動を終えた先輩の話がもっと聞きたいね～」という、これから就活を始める学生の一言がきっかけで、2003年10月に実行委員希望者6人で就職活動交流会学生実行委員会を結成。その年の11月に1回目の交流会を開催しました。それ以来、実行委員を中心に生協や学生支援センターの協力もあり、毎年夏と秋の2回開催し、今年の夏で12回目になります。就職活動を終えた4年生と、就職活動を始める3年生同士の交流、グループワークによる業界・企業研究、学生食堂での懇親会などを行っています。



交流会の集合写真



村上 智美
就職活動交流会実行委員
(人文学部3年)



岩崎 悠
総合企画部広報チーム
インターンシップ生
9/7～9/11
(経済学部3年)

人文学部3年の村上智美さんは、3年生の4月から就職活動交流会学生実行委員として活動してこられました。12月開催予定の交流会では実行委員長に就任し、実行委員のまとめ役に。今回は1、2年生の方にも分かりやすく、交流会を紹介してくださいました。

岩崎：就職活動交流会学生実行委員になったきっかけは何ですか？

村上：実行委員長をしている友人に誘われたことがきっかけです。それまでは、交流会があることも内容も知りませんでした。就職支援室の方との交流なのか、先輩との交流なのか、企業の方との交流なのか、就活をする人同士の交流なのかもよく理解していませんでしたが、これから私も就職活動が始まるということもあって、実行委員として動いてみたいと興味を持ち、誘いを受けました。

岩崎：交流会の中でどのような役割をしましたか？

村上：交流会の中で私の役割は、役職と言えるかは分かりませんが、ピラ配りをしていました。後は、週に1～2回、実行委員のみんなで集まって交流会のテーマや内容、参加者をどういった方法で集めるか、仕事の役割分担などを話し合っていました。

岩崎：前回の就職活動交流会（7/12開催）は満足のものでしたか？

村上：はい、満足のものでした。同期の人たちや先輩との交流ができたのでとても良かったです。最初は10～20人ぐらいの少人数でやろうかって話していたくらい全然人が集まらなかったのですが、当日の参加者は80人くらいでした。参加者アンケートを実施しまして、「ためになった」という声が多かったです。満足度を星5つで表す欄があって、ほとんどの人が星4つか5つを選んでくれて、やって良かった、次の交流会も頑張ろうという気持ちになりました。



岩崎: 実行委員になって良かったこと、苦労したことは何ですか？

村上: 良かったことは、就活仲間の輪が広がったことです。同じ学部だったのに今まで全く知らなかった人とも関わることができました。また、委員として中心になって動くので先輩と話す機会が多かったです。交流を通して、就活や企業のことについて、自分の知らなかった情報を先輩の体験談から得ることができました。実行委員になっていなかったら、就職支援室に通うくらいだったと思います。反対に、苦労したことは、就職の内定をいただいた先輩で話をしてくれる方がなかなか見つからなかったことです。そうしたときに、就職支援室の平尾先生によくお世話になりました。

岩崎: 交流会に参加するメリットは何だと思いますか？

村上: 就職活動をする仲間と出会えるというのが一番のメリットだと思います。また、大学の中で交流会をするので、学外の企業説明会に行くのと違い、山大生同士で交流もできて結束が深まります。また、参加することで自分のモチベーションも上がりますので、デメリットはないと思います。

岩崎: その中でも1番のアピールポイントは何ですか？

村上: 一番のアピールポイントは…全てがアピールポイントだと思います！就職活動交流会という名前の中にもあるように、交流が一番のアピールポイントだと思います。交流する相手は、先輩であったり、同輩であったり、目上の方であったりです。

岩崎: 交流会への参加や活動からどういったことを得ましたか？

村上: 交流会の中で講演してくださった先輩の「後悔しないようにどうしたらいいか日頃から考えた方がよい」という言葉が頭に残っています。エントリーシートを書くことや、SPI（能力&性格検査）の問題を解くことが嫌になったとき、この言葉を思い出そうにしています。

岩崎: 1～2年生へ向けて、就職活動始めるまでの今後の過ごし方のアドバイスをお願いします。

村上: 私は就活を終えたわけではないので大きなことは言えませんが、大学生にしかできないことをやっておいてほしいと思います。アルバイトや部活、サークル活動をはじめ、TOEICなどの資格にも挑戦してほしいと思います。大学生は自由に使える時間がたくさんあるので、有効に使ってほしいと思います。就活が始まるとできなくなると思うので、今を精いっぱい楽しんでほしいです。また、普段から自分なりの考えを持っておいてほしいと思います。それは、社会や政治のことから、身の回りの出来事まで、例えば、遊びに行ったら「楽しかったね～」で終わるのではなく、何が、どういったところがどんなふうかというのを、自分の言葉で言い表せるようにしておくことが大事です。

岩崎: 最後に、12月の交流会に向けて、実行委員長としての意気込みをお願いします。

村上: 夏の交流会よりも内容が具体的で良いものになりたいですし、任された仕事は責任を持ってやりたいと思います。実行委員長という役職にこだわらず、仲間と一緒に作り上げていくという気持ちで頑張ります!!



**楽しいインタビューを
ありがとうございました!**

就職活動交流会は3年生と大学院の1年生を対象としていますが、もちろん1～2年生も参加できます。ポスターやビラ、平尾先生の授業「キャリアと就職」の時間で告知しています。興味のある方は就職支援室に問い合わせてください。当日参加も大丈夫です。

平成21年度 学内業界・企業研究会 いよいよ開幕

キャンパスでの学びの機会

秋も深まり冬支度を急ぐころ、山口大学の吉田キャンパス・常盤キャンパスを会場に、学内業界・企業研究会を開催します。「働くことをもっとリアルに！」をキャッチフレーズに、全国各地で活躍する企業の皆さまをキャンパスにお招きする研究会です。今年度は11月9日(月)から2月の開催期間中に昨年度(417社)を上回る企業・官公庁等に参加をいただく予定です。学内業界・企業研究会は、山大生にとっての「学びの機会・出会いのチャンス」。多いに活用してください。



平尾 元彦
学生支援センター 教授

取材する気持ちで

「会社の説明会とは違うんですか？」との質問を受けます。もちろん会場では会社の説明もしていただきますが、主体は会社ではなくて、山大生。皆さんが会社の方々から直接情報を得て、聞きたいことが聞けるように、大学が主催する学びの機会なのです。あくまでも学生主体の「研究会」であるということ。ですので、お越しいただいた企業等の皆さまには感謝の気持ちを持って、積極的に質問してください。これからその業界・その企業への志望を固め、応募書類を書くための必要な取材をする。そんな気持ちで参加いただければと思います。

学生サポーターも活躍

3年生・修士1年生を対象とするこの研究会を運営しているのが1～2年生の学生たち。研究会に参加する企業の方をお手伝いし、先輩を応援するという意味で、学生サポーターという名で呼ばれています。毎年10人ほどの学生たちが自発的に参画し、自分たちのキャリアアップにも役立てています。興味のある方は、就職支援室にお問い合わせください。

いよいよ就職活動

この研究会が終わるころには、就職活動まさに本番です。皆さん、くれぐれも健康に気をつけて、自分にとってよい職業・よい会社にめぐりあってください。この学内業界・企業研究会がひとつのきっかけとなれば嬉しく思います。



平成20年度学内業界・企業研究会 吉田キャンパス (教室方式)



平成20年度学内業界・企業研究会 常盤キャンパス (ブース方式)

平成21年度 山口大学 **学内業界・企業研究会** 開催カレンダー

2009年12月

日	月	火	水	木	金	土
		1 吉田教室 16:30~18:00	2	3 吉田教室 16:30~18:00	4 吉田教室 16:30~18:00	5 ブース(常盤) 12:30~17:00
6	7 吉田教室 16:30~18:00	8 吉田教室 16:30~18:00	9	10 吉田教室 16:30~18:00	11 吉田教室 16:30~18:00	12
13	14 吉田教室 16:30~18:00	15 吉田教室 16:30~18:00	16 吉田教室 16:30~18:00	17 吉田教室 16:30~18:00	18 吉田教室 16:30~18:00	19 ブース(常盤) 12:30~17:00
20	21 吉田教室 16:30~18:00	22 吉田教室 16:30~18:00	23 ブース(吉田) 12:30~17:00	24	25 ブース(常盤) 12:30~17:00	26
27	28	29	30	31		

2010年1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8 吉田教室 16:30~18:00	9 ブース(常盤) 12:30~17:00
10	11 ブース(吉田) 12:30~17:00	12 吉田教室 16:30~18:00	13	14 吉田教室 16:30~18:00	15	16
17	18 吉田教室 16:30~18:00	19 吉田教室 16:30~18:00	20	21 吉田教室 16:30~18:00	22 吉田教室 16:30~18:00	23 ブース(常盤) 12:30~17:00
24	25 吉田教室 16:30~18:00	26	27	28	29	30
31						

2010年2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9 吉田・常盤教室 10:00~18:00	10 吉田・常盤教室 10:00~18:00	11	12 吉田・常盤教室 10:00~18:00	13 ブース(常盤) 12:30~17:00
14	15 吉田・常盤教室 10:00~18:00	16 吉田・常盤教室 10:00~18:00	17 吉田・常盤教室 10:00~18:00	18 吉田・常盤教室 10:00~18:00	19 吉田・常盤教室 10:00~18:00	20
21	22 吉田・常盤教室 10:00~18:00	23 吉田・常盤教室 10:00~18:00	24	25	26	27
28						

* 2月9日からは春期休業となるため10時からの開催となります。
 * 吉田キャンパスでブース方式研究会を開催する12月23日・1月11日は祝日です。
 * 1月15日はセンター試験準備、1月26日～2月8日は後期試験、2月24日～26日は入試のため開催しません。

O-HARA山口大学就職支援施設が誕生!!

吉田キャンパス内に山口大学の学生に対する新たな事業として、大原学園グループと連携し、O-HARA山口大学就職支援施設が誕生しました。



最新のVOD室



質問電話ルーム

この就職支援施設では、本学の学生を対象とした就職試験対策講座や資格取得講座を開設し、公務員試験や高度な資格試験にチャレンジできる学習環境が整備されています。建物内には普通の教室の他にも、都市部で行われている授業をパソコンで受講できるVOD（ビデオ・オン・デマンド）室などがあります。このシステムを利用すれば、自分で授業のスケジュールを組めるので、無理なく受講できます。

講座のご案内

- ・ 公認会計士
- ・ 税理士
- ・ 公務員
- ・ 行政書士
- ・ 宅建主任者
- ・ 簿記3・2・1級

メリット

- ・ 建物が大学敷地内にあるため、他のダブルスクール等にわざわざ通う必要が無い！
- ・ 通常の予備校や専門学校よりも授業料が安い！
- ・ 自宅学習のサポートとして、超記憶術セミナーや合格体験記分析セミナーといった能力アップセミナーもご用意！



学内に学生の就職支援事業として、専門学校講師による資格取得等の試験対策講座を実施する施設の建設は、**国立大学では初の試み**です！山口大学は新たな学生支援スタイルにより、山大学生の就職活動を応援します。皆さんも自分のキャリアデザインのために、将来へ向けて新たな一歩を踏み出してみませんか？

O-HARA山口大学就職支援施設

<http://www.o-hara.ac.jp/kokura/syakaijin/yamaguchi/>

留学生向け「学校からのおたより」

留学生の子育て

山口大学の博士課程や修士課程に在学する留学生数は、留学生総数の60%を超えてきています。すでに母国の大学で教鞭をとっている留学生も多く、子どもを伴い3年以上滞在する留学生もいます。また、その中には英語で学位を取得する留学生が多く、日本語は日常会話が何とかできるというレベルの学生も多くいます。各教育機関で配布される「おたより」には多くの漢字が使われているだけでなく、語彙や表現が大変難しく、留学生はその内容がほとんど理解できないために、多くの不安を抱えて生活しています。

大学と地域との連携

地域の保育所・幼稚園・小学校は、日本語がよく分からない両親に行事等をうまく説明できないというコミュニケーション上の問題を抱えているようです。地域の国際化を推し進め、多文化共生社会を構築するためには、大学が自ら地域社会に密着した活動を強化し、留学生の生活の質（Quality of Life）の向上に努めることが求められているのではないのでしょうか。

「保育園・幼稚園からのおたより」・「小学校からのおたより」（英語版・中国語版）の内容

山口市立平川小学校・山口市立平川幼稚園・私立大内光輪保育園から実際に配布された「おたより」を提供していただきました。今回作成した冊子では、各教育機関で行われている行事を4月から順に紹介しました。全ての漢字にルビを振り、語彙リストを作成し、重要な行事や語彙については詳しく解説しました。さらに、写真を掲載し、日本の教育機関での行事の様子を分かりやすく紹介しました。

山口市国際交流室・山口市教育委員会・宇部市の国際課のご協力を得てこれらの冊子を各教育機関に配布することができました。



『留学生の子育て支援のために』『保育園・幼稚園からのおたより』と『小学校からのおたより』（英語版・中国語版）を作成しました！



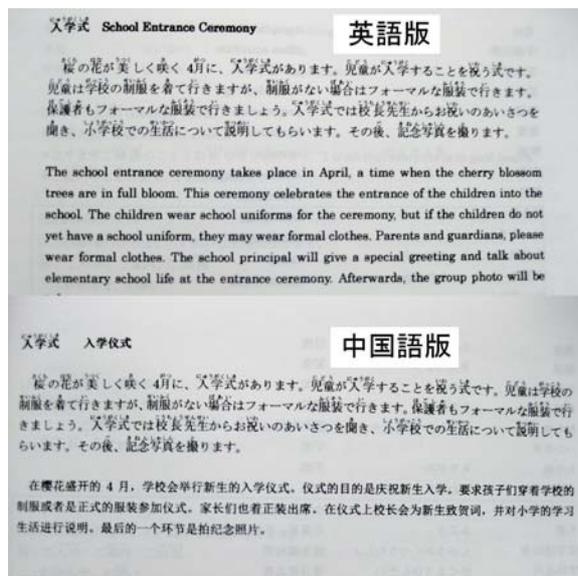
杉原 道子
留学生センター 准教授

おわりに

これらの冊子は学長裁量経費により、平成20年度は英語版と中国語版を出版することができました。平成21年度はロシア語、マレー語、韓国語、ベトナム語の翻訳に取り組んでいます。

現在、冊子配布先の各教育機関に冊子への評価や外国人子弟の抱える問題点についてのアンケートを依頼しています。

これらの冊子を作成するに当たり、留学生をはじめ多くの方々の献身的なご協力をいただきましたことに、心からお礼申し上げます。



*お子さんのいらっしゃる山口大学の留学生の皆さまへ
まだ冊子を受け取っていない人は留学生センター・杉原までご連絡ください。
TEL 083-933-5985
E-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp

学生のダメだし

木下 勝之

(講師 大学院理工学研究科
機械設計工学分野)



私が担当しているのは、「材料力学」という機械工学の中でも「4力」と呼ばれる最も基礎となる科目のひとつです。どんな内容かといえば、機械工学の役目の1つとして「壊れないように物を設計すること」があります。壊れない設計を行うには、まず物に力が加わったときどのような変形をするのか知っておく必要があります。それを棒や平板といった単純化した形状で学んでいくのが材料力学になります。こう書くと非常に簡単に感じるかもしれませんが、その正体は応用力学であり、数学で語られることとなります。当然そのような内容を講義していくにはさまざまな工夫が必要となります。工夫を行う上では、まず学生の反応が必須ですが、私は、最も率直な学生の反応はテストに現れると思っています。そして、彼らが私に何度もダメだしをしてくる度に講義をいろいろな側面から改善してきました。

最初の大きなダメだしは、初めて講義を担当したときの中間試験でした。結果の悲惨さもさることながら、事前に模擬試験など試験対策を行い、普段から宿題を課しての結果のため非常にショックを受けました。つまり、それまで課していた課題は学生にとって単なる作業でしかなかったことが明らかになったわけです。それでは、学生の力になる課題とはどういうものかと考え抜いた挙句、現在の予習・復習プリントが生まれました。といっても大したもの

ではなく、宿題をそれまでのレポート形式からA3サイズ1枚のプリントに切り替えただけです。しかし、そこに達成度がわかるように点数が記入されていく表紙をつけることにしました。また、問題も学生にどのような力をつけてほしいのか、そのコンセプトを明確にしました。そして、特に重要視したのが、彼らがプリントをみて自分の弱点、改善点がわかるように採点を細かく行うことでした。それらの改善はかなり効果的でしたが、このダメだしは学生が全員満点を取るまで永遠に続きます。これからもダメだしの度に講義を成長させていければと思っています。



講義風景

▶ 学内連絡先

TEL 0836-85-9153

E-mail:kinosita@yamaguchi-u.ac.jp

酸素分子からみた疾患病態



池田 栄二

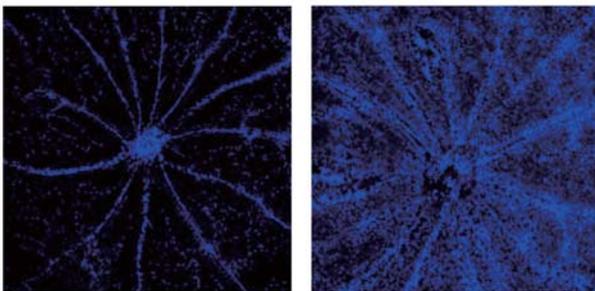
(教授 大学院医学系研究科
病理形態学分野)

私は、疾患の成り立ちを研究する病理学を専門としております。疾患にはいろいろな側面がありますが、私どもの研究室では酸素分子という視点から疾患の病態解析を進めております。

ヒトは酸素を主たるエネルギー源として生活しており、身体を構成する細胞・組織・器官の機能は大気に存在する酸素に依存しています。32億年前に酸素を産生する光合成細菌シアノバクテリアが出現し、長い年月をかけて地球環境の酸素濃度が上昇し、現在の我々が生活する大気が形成されるに至りました。当時の生物にとって酸素は毒ガスであり、酸素による“環境破壊”が進むなか、ミトコンドリアという細胞内器官を有し酸素をエネルギー源として利用できる生物が誕生しました。さらに、エネルギー源である酸素が不足した環境（低酸素環境）においても生存するため、生物の細胞・組織・器官は細胞周囲の酸素濃度を感知して反応する機構を獲得しました。激しい運動をした後に息が荒くなることや、高地に生活する人の血液中に赤血球が多いことなどが良い例です。ところが、本来は生存を可能にする

ために備わっている低酸素環境に対する反応機構が、一方では、種々の疾患において病態を悪化させる方向に働く一面も有していることが分かってきました。

ヒトの身体の細胞・組織は、周囲酸素濃度変化に反応して機能や形を変えますが、特に酸素の運搬路である血管系の反応は敏感です。こうした血管系の反応が、糖尿病や癌など多くの難治性疾患の病態の中核に位置しているわけです。例えば、糖尿病、癌の病巣では酸素濃度が低下しており、病巣部へより多くの酸素を運ぶための代償機構として血管の新生が起こります。ところが、この新生血管が、糖尿病における失明、癌細胞のさらなる増殖をきたし病態を悪化させてしまいます。これまで私どもは低酸素環境にて誘発される血管新生機構の一端を明らかにしてきましたが、現在、血管透過性の変化など血管新生以外の反応機構についても詳細な解析を進めています。こうした基礎医学研究成果をもとに、いまだ有効な治療法のない難治性疾患に対し新たな治療法を開発すべく研究を進めております。



低酸素環境下における網膜血管(マウス)の透過性亢進

〔 静脈内に注入した色素は、正常酸素環境下(左図)では網膜血管内にとどまっているが、低酸素環境下(右図)では網膜血管外に漏れる 〕

▶ 学内連絡先

TEL 0836-22-2220

E-mail:ikedae@yamaguchi-u.ac.jp

良い情報システム と 見える情報システム



永井 好和

(准教授 大学情報機構メディア基盤センター)

■人は情報システム？

私は、より良い「情報システム」とは何かを追究しています。いわば「情報システム学」です。皆さまは「情報システム」と聞くと何を思い浮かべますか？サーバとPCを繋いだハードでしょうか？座席予約システムや本学の修学支援システムなどのようなソフトウェアを含むものでしょうか？「情報システム」は、ハードやソフトウェアはもちろん人間をも含みます。人間を含めた情報の流れを分析して機械化部分を増やせば、人間がより高度な仕事へとシフトする機会が増えるのではないのでしょうか。その分析や機械化のための仕組みを追究しているのです。最近では「可視化」あるいは「見える化」などといった、情報システムの表現方法も研究しています。

私がこの分野に入ったきっかけは古く、ある企業の販売在庫管理システムを開発したときです。営業所で受注した商品を工場で生産して顧客に納入し、月末に請求して入金を受ける、この一連の業務をコンピュータ化するプロジェクトでした。業務内容を知らなかった私は、現場の方の話から情報の流れを整理し、業務パターンごとに図表や文章を書いて確認していきました。可視化という言葉が使われる以前でしたが、必要に迫られて図式化していたこととなります。作成した図を見ていると、人間も情報処理の一部を担っていることに気がきます。人間は、目と耳あるいは触覚などから入力された情報を処理し、手足や口から処理結果を出力して、情報システムの一部を構成します。手順があいまいな処理や未経験の処理もこなせる、極めて優秀な情報機器なのです。もちろん人間は機械ではありませんし、睡眠や休憩も必要です。感情に左右されたり疲れしたりして、入力情報が正しくても間違った処理結果を出すこともあります。誤った入力やあいまいな情報に対して正しい処理結果を出すことができるのも人間です。人間の誤りを機械で検出する仕組みや、人間が

機械の誤りに気付くための手続きや仕組みが必要になります。「情報システム」には、人と機械が相互に補完する仕組みが大切なのです。

■情報システムはシンプルなのが良い！

ITは日々進歩し現実の業務なども変化します。最近では、コンピュータウイルスなど、日々増加するさまざまな脅威への対応強化も求められています。その対応のためには、情報システムがシンプルであるに越したことはありません。機能の似た情報システムがいくつもあるのも好ましくありません。無駄な処理をそぎ落とし、人と機械をうまく結び付けた情報システムが組織を強くし安全にするのです。どのように表現したら（あるいは記述したら）そのような情報システムが人に見えるか、その表現方法に腐心している昨今です。

■安全な情報システムは安全な組織から

ところで、私どもメディア基盤センターでは昨年ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）を構築し、国際規格であるISO/IEC27001（JIS27001）に適合する改善活動を継続しています。情報システムの安全に関する教育・研究が盛んになっている最近では、学内情報セキュリティ講習会や共通教育科目「情報セキュリティ・モラル」なども担当するようになっていきます。

暗号や電子署名・認証局といった技術面の話題から個人情報保護法や不正アクセス防止法などの法律問題など、非常に幅が広く奥の深い分野で学際的な分野です。さまざまな分野の方と交流し、生活を支える研究を推進することに意義を感じつつ、メディア基盤センターの業務とのバランスを取りながら研究生活をエンジョイしています。

▶ 学内連絡先

TEL・FAX 083-933-5991

E-Mail: ynagai@yamaguchi-u.ac.jp

教員から寄せられた著書



Endosymbionts in Paramecium

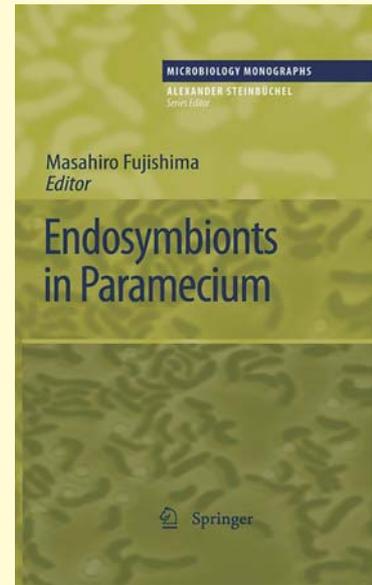
(Masahiro FUJISHIMA (ed.) , Springer-Verlag Berlin Heidelberg, 2009年 5月発行)

「細胞内共生」は、真核細胞の誕生と進化の原動力として現在でも繰り返して行われ、多くの進化生物学者を魅了してきました。近年のゲノム科学の発展は、細胞内共生を行った宿主細胞と共生細胞の種の同定を可能にし、藻類では多くの種類で細胞進化のルーツが明らかにされています。

しかし、この現象の成立機構の解明には実験室での再現が必須です。有用な研究材料探しは困難を極めました。すでに、宿主細胞と共生細胞の双方に単独での増殖が不可能なほどの変化が進行していたためです。この問題を解決してくれたのはゾウリムシでした。ゾウリムシの共生細菌の「ホロスボラ」や共生藻の「クロレラ」は、ゾウリムシと適切な条件で混合するだけで多数の細胞に同調して細胞内共生が誘導され、計時の変化を追跡できたのです。

本書は、単細胞生物では初の細胞内共生の専門書で

す。Springer社のMicrobiology Monographシリーズの第12巻として出版され、国内外の最もアクティブな研究グループが9つの章を分担執筆しました。細胞進化のルーツの探索が主流であった細胞内共生の研究は、筆者らを中心としてその成立機構の解明へと目標を変えたことがお分かりいただけることと思います。



藤島政博 教授 大学院理工学研究科 環境共生生物学分野
TEL : 083-933-5712 E-mail : fujishim@yamaguchi-u.ac.jp



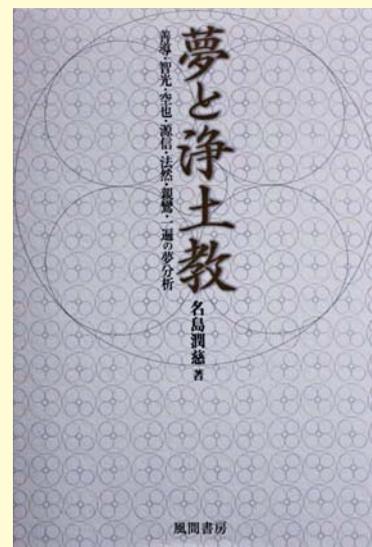
『夢と浄土教一善導・智光・空也・源信・法然・親鸞・一遍の夢分析』

(名島潤慈 風間書房 2009年 7月発行)

私はこれまで夢分析については、『夢分析における臨床的介入技法に関する研究』（風間書房、1999年10月）と『臨床場面における夢の利用—能動的夢分析』（誠信書房、2003年 5月）を出版しました。本書『夢と浄土教一善導・智光・空也・源信・法然・親鸞・一遍の夢分析』は3冊目になります。取り上げた7人の浄土教志向者のうち、善導 (Shan-tao) のみが中国人です。

今回のものは、扱ったテーマと人物たちが非常に大きかったので四苦八苦し、完成までに17年かかりました。最初の学会発表は1992年で、題名は「親鸞の夢—『三夢記』（建長二年文書）の検討」というものでした。

長い年月をかけて吟味しましたので、質はともかくとして、私としてはとことんやったという感じがしております。



名島潤慈 教授 教育学部 教育心理学教室
TEL : 083-933-5465 E-mail : najima@yamaguchi-u.ac.jp

編集後記

なんとなく大学生活を送り、なんとなく就職先が決まるという時代ではありません。たった一度きりの人生、誰のための人生でもありません。自分の人生です。汗を流し、悩み、そして楽しみながら生き抜いていく。そのためにはできるだけ早く、自分の適性を知り、夢を描くに越したことはありません。しかし今の時代、夢を描くことは簡単ではありません。小さなきっかけを大切に、少しでも興味が持てそうなことを創造力たくましく大きな夢に膨らませてみてください。その夢にたどり着くにはどうすればいいのでしょうか。夢を大きな目標とみなし、これを小さな目標に分解して、ひとつひとつの小さな目標に果敢に挑戦してみてもうどうでしょう。また、自分の適性を知ることも容易ではありません。適性は、数十年後、適性を探し求める旅路の果てに分かるものなのかもしれません。たまたま縁のあった仕事で、ああでもないこうでもないと思い悩むことを繰り返すなかで適性が備わっていくのかもしれません。

今回の特集では、大学と縁のある企業や卒業生の方が、ご自身の来し方を振り返られて、これから働くことを意識し始める若い皆さんに向けた思いを綴られています。同じ悩みを抱える同世代の座談会もあります。何かきっかけをつかもうという意識をもって、一度ならず二度三度と読み返せば、必ず皆さんの心の琴線に触れる何かが見つかるかと信じています。自らの行く末を決めるには勇気が必要です。また、不安は誰にもあります。今は見えない未来への扉は、皆さんが半歩踏み出し、勇気を持って開けてくれるのを待っています。 (成富 敬)

◎山口大学Webページ<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学広報誌第九十三号

平成二十一年十一月三十日発行

編集発行 山口大学広報委員会

(総合企画部広報チーム)

住所 山口市吉田一六七七一

電話 (〇八三) 九三三一五〇〇七

FAX (〇八三) 九三三一五〇一三

E-mail sh011@yamaguchi-u.ac.jp

(本紙に関するご意見・ご感想をお寄せください)

印刷 株式会社 株マルニ

広報委員会委員

村田 秀一 (総務企画担当副学長)

長畑 実 (総務企画担当副学長補佐
エクステンションセンター)

坪郷 英彦 (人文学部)

菊屋 吉生 (教育学部)

成富 敬 (経済学部)

岩尾 康宏 (理学部)

坂井田 功 (医学部)

浜本 義彦 (工学部)

藤間 充 (農学部)

何 暁毅 (大学教育機構)

近久 博志 (産学公連携・イノベーション推進機構)

小河原加久治 (大学情報機構)

松田 博 (アドミッションセンター)

中尾 淑乃 (総合企画部広報チーム)

※ 次号は3月31日発行予定です。(5月・7月・11月・3月の年4回発行予定)



YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学広報委員会 2009年11月発行